

豊橋まちなか未来ビジョン

BEYOND THE LIVABLE CITY

住みやすさの一步先へ

CONTENTS 目次

1

Beyond the Livable city

コンセプト	02
まちなか未来ビジョンとは？	03
本ビジョンの対象エリア	04

2

目指すまちなかのすがた

未来のまちなかのすがた	06
まちなかでの暮らしのイメージ	12

3

アクションプランとプロジェクト

5つのアクションプランとプロジェクト	16
プロジェクトマップ	28

4

2050年のまちなかの将来像

市民が願うまちなかの将来	30
2050年の将来像と市民の期待	32

5

豊橋市・まちなかとは？

まちなかの考え方・位置づけ	42
豊橋市の概況	43
まちなかの現在	48
まちなかのこれから	66

6

まちなか未来会議とは？

74

豊橋まちなか未来ビジョン

BEYOND THE LIVABLE CITY

住みやすさの一步先へ

豊橋のまちなかは、豊川の恵みと東海道の宿場町、そして吉田城の歴史の上に、
地域の方々が自らの手で築き上げてきたまちです。

現在の住みやすさを守り、活かし、より豊かな都市へと進むためには、
未来を切り開き続けていくことが重要となります。

「豊かさに橋を架けるまち」として、単に住みやすいまちであるだけでなく、
これからの時代における新しい価値観、文化、暮らしを積極的に発信できるまちを、
わたしたち自身の力で築き上げていきます。

まちなか未来ビジョンとは？

東三河の政治経済を支えてきた豊橋のまちなか

豊橋市のまちなかは、豊川と東海道の結節点に位置しており、8世紀には政治の中心となり、吉田城築城から明治維新、戦後復興、高度経済成長期、そして現在に至るまで、地域の様々な人々が協力し、その時代ごとの危機を乗り越え、まちの賑わいと再生を支えてきました。

地域の物の流通拠点から、人・情報の交流発信拠点へ

1990年代頃からまちなかの機能を再定義すべく、官民で数々の新しい取り組みを進めてきました。近年ではemCAMPUSとまちなか広場のオープン、水上ビルの再生、ストリートデザイン事業の竣工など、これまで進めてきた様々な取り組みが、点から線へ、そして面へと、徐々につながりはじめています。

30年後も愛されるまちであるために

このビジョンは、まちなかが時代に沿った多くの魅力を備え、市民をはじめとした様々な人に愛されるまちへと発展するために、約30年後の未来に向けた目標像を明確化し、様々な関係者で共有し、その実現のための取り組みをまちなか内外の様々な関係者と協力して進めるためのものです。

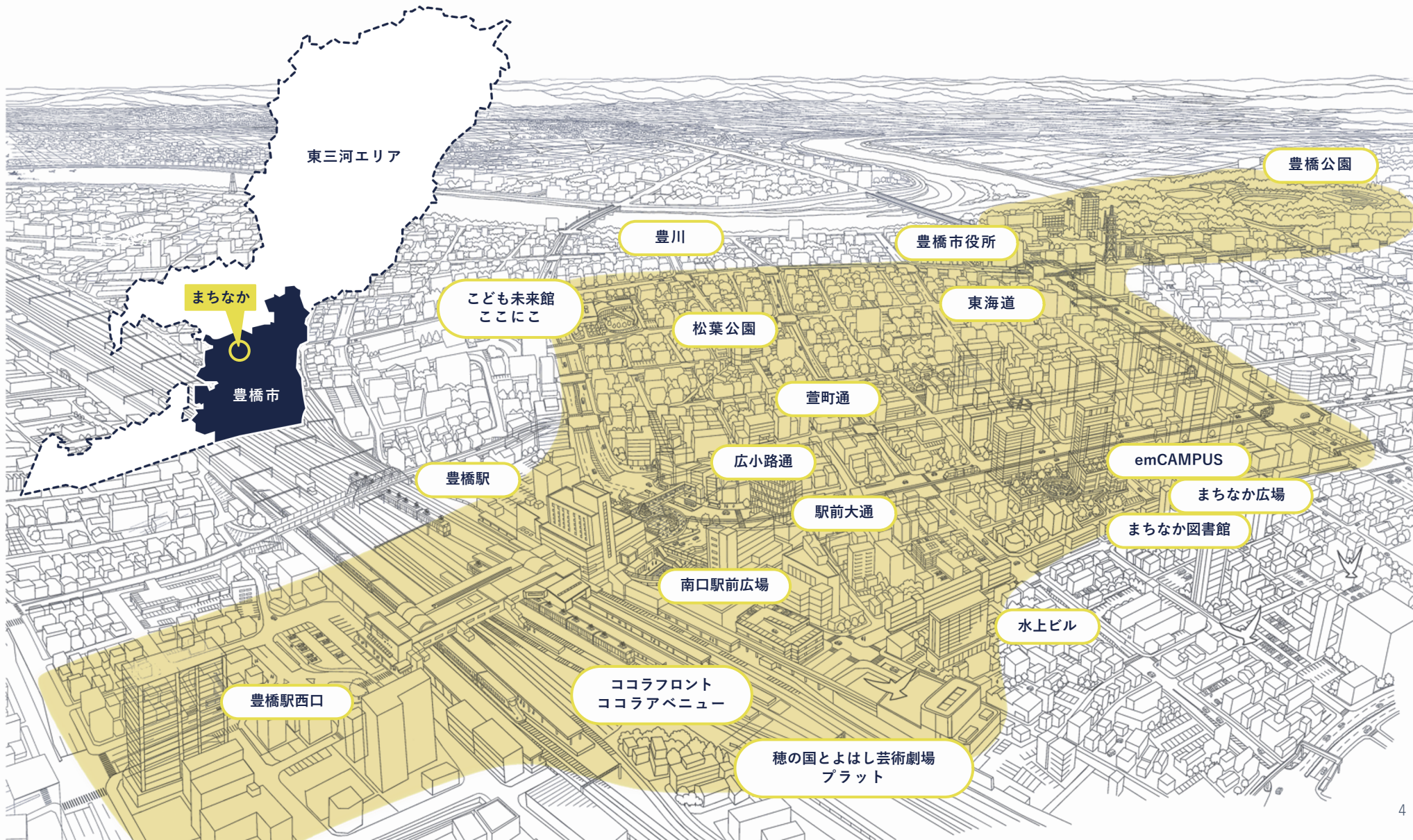
未来に向けて広がるアクション

2050年ごろの未来を目標としたまちなかの「将来像」と、その実現のために2030年ごろまでに取り組む「アクション」を定め、取り組みを展開します。取り組み状況は毎年少しずつ更新しつつ、まちなかの動きを発信していきます。



本ビジョンの対象エリア

本ビジョンが示す「まちなか」は、様々な取り組みが進められている駅東側1km圏内および駅西側周辺の下記エリアを指します。今後の取り組みの推進状況により集中あるいは追加を適宜行います。



目指すまちなかのすがた

未来のまちなかのすがた 06

まちなかでの暮らしのイメージ 12



未来に向けた 5つの 目指すすがた



Walkable City

歩いて暮らせるまち

アクセスがよく
サービスやモノが集積しており、
歩いて暮らせる、楽しめる、
出会いがあるまち

Selectable City

誰もが生き方を選べるまち

暮らしの価値観や
ライフスタイルが多様化する中で
様々な働き方、暮らし方、
楽しみ方が選べるまち



Edible City

農と食がつながるまち

安心安全でおいしい食文化に
支えられるとともに、
農と食から、つながり、
産業、魅力が生まれるまち

Cultural City

文化が重なり合うまち

多様な種類の文化や魅力が
まちなかに織り重なり、
地域のアイデンティティとして
語れるまち



Tolerance City

寛容で豊かなまち

コミュニティが生まれ、
誰をも迎えられるとともに、
地域の力でより豊かな未来を
築いていけるまち





Walkable City

歩いて暮らせるまち

POINT 1 公共交通機関をはじめとして、まちなかに様々な手段で気軽にアクセスできる、また、まちなかからも様々な目的地へと移動しやすいまち

POINT 2 居心地の良い公共空間がたくさんつながっており、高齢者や子育て世代も安心して回遊し暮らせるまち

POINT 3 生活施設や文化施設、商業施設、そして公園や憩いの場が密接し、歩いて暮らしや楽しみが満喫できるまち



Selectable City

誰もが生き方を選べるまち

POINT 1

様々な業種や職種の雇用があり、このまちに定住しても、それぞれが思い描くキャリアを実現しやすい環境が整っているまち

POINT 2

置かれた環境がどのようなであっても、自分の状況や意欲に合った働き方、暮らし方が選べるまち

POINT 3

学生や若い人が新しい文化や価値に出会うとともに、自分たちで挑戦や起業、発信する機会がたくさんあるまち



Edible City

農と食がつながるまち

POINT 1

安全安心で豊かな食にアクセスでき、健康かつ社会や環境にやさしい暮らしが実践できるまち

POINT 2

農業や食べ物に関わる機会がたくさんあり、暮らしに食の魅力があふれ、地域の農産物をしっかりと消費しているまち

POINT 3

食や農に関わる人や資源のハブとなり、農を活かした産業・企業や、新たな食文化を発信するお店が次々と生まれるまち



Cultural City

文化が重なり合うまち

- POINT 1** 質の高い舞台や演劇、コンサート、スポーツ観戦の機会と
まちの賑わいが組み合わせり、近隣地域から多くの方が訪れるまち
-
- POINT 2** 多様な価値観に合った個性的なお店や人が連なり、
通りや地域ごとに異なる魅力や文化、歴史が発信できるまち
-
- POINT 3** 東海道や手筒花火、様々な祭りをはじめ、
豊橋と東三河地域全体の多様な文化や生活文化が身近に感じられるまち



Tolerance City

寛容で豊かなまち

POINT 1 地域のコミュニティがしっかり育まれ、誰をも迎え入れ、ともに安全安心な暮らしを築いていけるまち

POINT 2 様々な主体が志を持ってまちづくりに積極的に関わり、次々と新しい挑戦を行い、それを受け入れることができるまち

POINT 3 ICTの活用により、まちなかの情報が積極的に発信、交換されるとともに、東三河地域の玄関口として他地域とも交流しやすいまち



職場も病院も保育施設も近いので、
子どもが急に発熱しても、夫婦で協力して対応することができます。

職場も家も歩いて帰れる場所にあるので、
遅くまで飲んでも安心です。



暮らす

毎週まちなかでイベントがあり、
その情報が自治会を通じて回って
くるので、隣の家族と一緒に遊び
に行くようになりました。



すぐ近くの生産地から
安全でおいしい食材が手に入るので、
家で料理をする機会が増えました。



この地域で魅力的な生産者と出会ったので、
クラフトフードの新しいお店を出すことにしました。



大都市へのアクセスがよく、みんなが実証
実験や様々な協力をしてくれるので、豊橋
に住みながら、東京にいるクライアントの
仕事もこなせています。

働く



保育施設も小児科も家から歩いていける距離にあり、
会社も柔軟な働き方を提案してくれるので、仕事を続ける
ことができます。

夫婦共にこれまでのキャリアを活かした職種に就くことができたので、
東京から暮らしの拠点を移すことに決めました。



豊橋市を宿泊拠点に、
海から山まで遊びつくそうと
思っています。



毎月、名古屋から豊橋に来て、舞台を見に行ったあとに、
美味しいお店でゆっくり感想を言い合いながら食事をする
のが楽しみです。



東海道沿いのお店のファンです。ここにしかないお店も
多いので、時々無性に來たくなります。

楽しむ

東京の取引先をオフィスに招くと、いつも
食事やお土産の評判が良く、喜ばれます。



emCAMPUSで学生の集まるイベン
トも多く、周りのお店の人や企業の
人とも、友達になりました。下宿先
からよくまちなかへ出かけてます。



アクションプランとプロジェクト

5つのアクションプランとプロジェクト 16

プロジェクトマップ 28

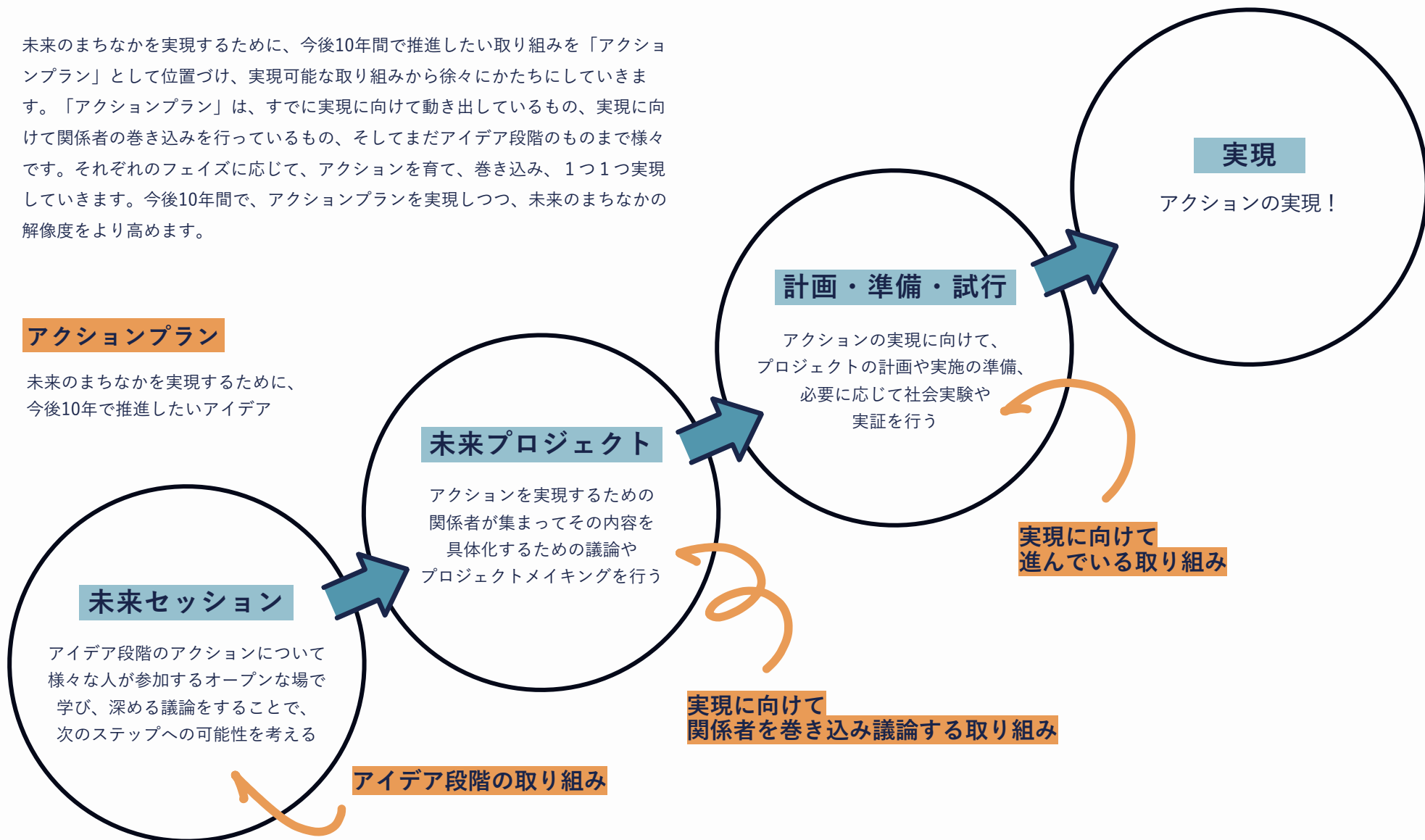


アクションを育て、 巻き込み、実現する

未来のまちなかを実現するために、今後10年間で推進したい取り組みを「アクションプラン」として位置づけ、実現可能な取り組みから徐々にかたちにしていきます。「アクションプラン」は、すでに実現に向けて動き出しているもの、実現に向けて関係者の巻き込みを行っているもの、そしてまだアイデア段階のものまで様々です。それぞれのフェイズに応じて、アクションを育て、巻き込み、1つ1つ実現していきます。今後10年間で、アクションプランを実現しつつ、未来のまちなかの解像度をより高めます。

アクションプラン

未来のまちなかを実現するために、
今後10年で推進したいアイデア



未来のまちなかを
実現するための
5つのアクションプラン

action plan 1

p.18

にぎわいと文化を紡ぐ

- 公共空間の利活用と整備により回遊性と滞在性を高める
- モビリティの接続強化により多様な施設や機能をつなぐ

action plan 2

p.21

食と農でまちをつなぐ

- 生産・加工・販売ネットワークとビジネスを支援する
- まちで食と農に関わる機会を増やし魅力を高める

action plan 3

p.23

暮らしの地図を描く

- 子育てや健康教育機会を充実し暮らしの選択肢を増やす
- 自治会やイベント等の情報を得やすくし暮らしとつなげる

action plan 4

p.24

学びと挑戦の場を育てる

- 多様な人の活躍を応援しあらゆる場で参画機会を増やす
- 実証実験や起業など挑戦しやすい環境を整える

action plan 5

p.25

未来を変えるチームを作る

- 未来を議論するプラットフォームとまちの世話役を育てる
- まちのデータ基盤を作り情報発信を強化する

action plan 1

にぎわいと文化を紡ぐ

公共空間の利活用と整備により

回遊性と滞在性を高める

公共空間利活用の推進による賑わい創出

- ・通りや広場・公園ごとの個性的な利活用・イベントの推進と環境整備
(広小路通り、水上ビル、萱町通り、豊橋駅南口駅前広場、豊橋市まちなか広場、豊橋公園等)
- ・まちなか公共空間のカタログ作りと利活用推進に向けた仕組みづくり
- ・駅コンコースや駅ビルを活用したプロモーションと多様なチャレンジ
- ・多目的屋内施設での各種コンベンションの誘致、および来訪者お買い物促進

公共空間整備による回遊性の向上

- ・駅前大通の歩道空間の滞在性向上に向けた整備 **leading project**
- ・沿道の建替等に対応した広小路通りのリニューアルや改善の検討
- ・豊橋駅西口の利便性向上
- ・松葉公園リニューアル整備の検討
- ・バリアフリー向上に向けた各通りや公園における歩行空間の修繕・改善
- ・多目的屋内施設を含む豊橋公園の東側エリアの整備

空き店舗対策等による沿道空間の充実

- ・リノベーションまちづくりや空き店舗支援による商業や新たな魅力の促進
- ・再開発事業における広場等の設置や滞在性向上の促進
- ・緑空間の充実と地域管理の仕組みづくり

モビリティの接続強化により

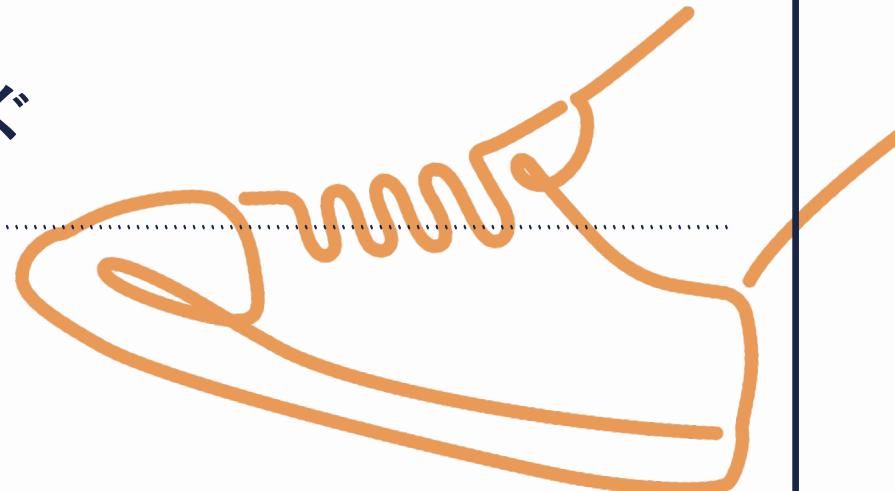
多様な施設や機能をつなぐ

各種モビリティのまちなかアクセス向上

- ・モビリティの接続強化や配車アプリ等の充実・普及促進
- ・デジタルチケットの試行やまちなかサービスとの連携
(共通駐車券、サービス券活用)
- ・デジタル情報の活用による、移動と目的が連携した取り組み **leading project**
- ・タクシーを活用したまちなかアクセス・回遊の向上に向けた取り組み検討

公共交通と連携した
まちなかの回遊性向上の仕掛けづくり

- ・モビリティを活用したまちなかアクセス・回遊の向上の取り組み
(デジタルスタンプラリーや謎解きなどのイベント促進、路面電車の企画列車継続・充実)



leading project 主要なプロジェクト

駅前大通の 歩行空間充実プロジェクト

多様なモビリティの接続や、グリーン・サステナブルなまちのデザインや機能を高めることで、まちなか全体の回遊を促進し、今よりもっと楽しく歩けるエリアへと転換するため、豊橋市の顔でありシンボルロードである駅前大通の再編を進めます。

社会実験や歩道改良など、できることから段階的に取り組み、未来を先取りしたシンボルロードへの転換を目指します。

主な推進機関

豊橋市、豊橋商工会議所、愛知県



road map ロードマップ

2023-2024

社会実験と 短期的取り組みの検討

沿線や地域との意見交換を踏まえて、未来の駅前大通のコンセプトイメージを描きます。そのうえで、利活用や植栽管理に関する社会実験等により駅前大通の歩行環境を検証し、短期的な改善に向けた基本計画を作成します。

2024-2028

歩行環境改善に向けた 短期的整備

基本計画に基づき、歩行環境改善に向けた短期的な整備の実現を目指し、歩きやすさや滞在性、景観の向上を図るとともに、イベント的・日常的な利活用を促進します。

2029以降

時代にあった シンボルロードへの再編

シンボルロードにふさわしい通りを目指し、沿道の開発状況を踏まえ関係機関との議論を重ねながら、長期的な通りの再編に向けた検討を進めます。

leading project 主要なプロジェクト

まちなかアクセス向上プロジェクト

目的地へのアクセス手段として公共交通が選択肢にあがる状態をつくり、多様な方々の移動のしやすさを向上するため、東三河地域レベルで目的地情報と公共交通情報を集約・一元化したサイト構築を進めます。

あそこへ行きたい！を探せるとともに、そこへの公共交通でのアクセス情報がスムーズに得られる状態を目指します。

主な推進機関

豊橋鉄道

ほか推進機関

豊橋市

road map ロードマップ

2023-2024

必要性や手法の確認

東三河地域での公共交通の実態や観光情報との接続の価値の共有し、そのための手法を検討します。



2024-2025

デモ実施と効果検証

既存サイト等を利用し、特定エリアに特化したデモを実施し、効果を検証します。



2026以降

多主体の情報掲載による利用促進

多様な主体から掲載情報を入手しサイトを充実させるとともに、広く一般への周知を行います。



action plan 2

農と食でまちをつなぐ

生産・加工・販売ネットワークとビジネスを支援する

生産・加工・販売をつなげる

- ・市内農産品等に関するEC サイトやチャンネルの拡充
- ・地元農家と地元飲食店のマッチング事業
- ・市内飲食店と生産地との輸送販売ネットワーク等の強化

農と食のまちとしてのブランディング **leading project**

- ・観光や食文化の一体的な情報発信の推進
- ・大都市への販売チャンネルの拡大

まちで食と農に関わる機会を増やし魅力を高める

農と食に触れる機会の拡大

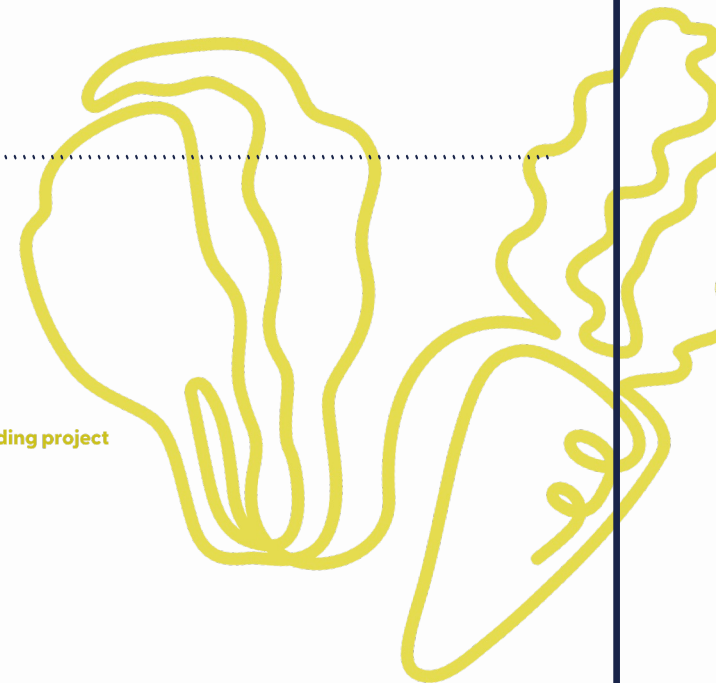
- ・農業や食に関わるセミナーやイベント機会の創出
- ・地元生産品を購入できる機会の創出と消費の促進

都市農業の展開支援

- ・屋上農園事業の展開と普及促進
- ・都市農業に必要な技術の実証事業やビジネス展開支援

魅力的な食文化のまちなか出店促進

- ・質の高いクラフトフードを扱う飲食店の誘致・出店支援
- ・市内飲食店と生産地とのネットワーク強化



leading project 主要なプロジェクト

食と農のまちなか展開プロジェクト

東三河地域の特徴である食・農をまちなかでも存分に感じてもらえるようにするため、様々なプロジェクト間で連携し合い、共通認識とした価値をまちなかから発信します。

食農といえば東三河・豊橋といわれるように、地域の食農の魅力を定義するとともに、まちなかでその魅力が十分に体感できる、という状態を目指します。

主な推進機関

中部ガス不動産 (emCAMPUS FOOD)

ほか推進機関

豊橋市、愛知県

road map ロードマップ

2023-2024

この地域の食農の魅力定義

地域の特徴といわれる食農の何が魅力なのか、を食農プロジェクトに携わる企画者間で話し合い、定義します。



2024-2025

各種事業の統一パッケージによる実施

主体横断的に、統一的なパッケージ（魅力）のもと、統一的な発信・事業実施するような取組を行います。



2026以降

市域の食農の魅力の地域外への発信とブランド化

食農の魅力をメディアやマーケティングの力を使いつつ、戦略的に大都市などへ浸透させます。東三河の食農の魅力を定義し、それに沿ったブランド化を行います。



action plan 3

暮らしの地図を描く

子育てや健康教育機会を充実し

暮らしの選択肢を増やす

生活支援機能の充実

- ・保育や医療、教育施設・サービスの積極的な誘致
- ・託児サービス等の充実
- ・健康の維持向上のためのプログラムの提供や充実
- ・献血ルーム等の設置検討

多様な市民の居場所づくり

- ・高校生や大学生、高齢者などの日常的な居場所・拠点づくり
- ・空き家等を活用した学生・若い人向けの住居整備の取り組み
- ・図書館や市民センター等でのコミュニティづくりの継続
- ・国際交流機会の創出・拡大

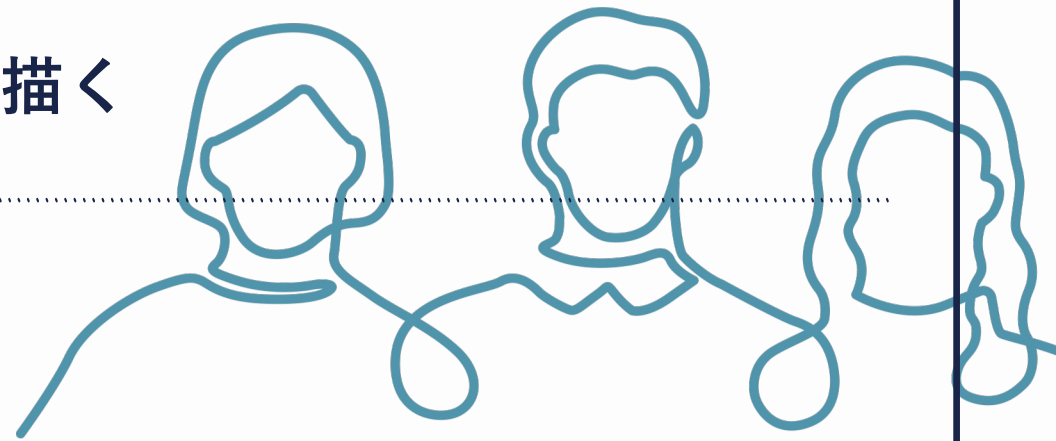
自治会やイベント等の情報を得やすくし暮らしとつなげる

自治会活動のデジタル化と情報発信・連携強化

- ・自治会活動のデジタル化等によるマンション居住者を含む住民への情報発信強化と交流促進の仕掛けづくり
- ・自治会と他団体との連携による防災訓練の実施
- ・防犯カメラなど暮らしの安心を守る設備の設置推進

まちなかの情報発信

- ・まちなかイベントや歴史等の情報の集約と積極的な情報発信
- ・地域メディアによるまちなか情報の積極的な発信



action plan 4

学びと挑戦の場を育てる

多様な人の活躍を応援し

あらゆる場で参画機会を増やす

活躍のためのきっかけづくり

- ・女性を中心とした起業や活躍に関するセミナー等の充実（女性起業塾など）
- ・大学・企業と連携した社会人向けの学べる機会・セミナー等の充実
- ・企業に向けた働きやすい職場環境創出のセミナー・呼びかけ
- ・セカンドキャリアとして働ける場づくり

実証実験や起業など挑戦しやすい環境を整える

先端技術の実証機会創出

- ・企業によるMEET UP イベントの実施と実証実験への接続
- ・行政による先端技術実証・採用機会の創出（Urban Innovation Toyohashi など）
- ・実証実験・事業支援の仕組み化

まちづくりのあらゆる場での参画機会創出

- ・高校生や大学生、アートによるまちづくりの提案・実践機会創出（sebone、リノベーションまちづくり、ピッチイベントなど）
- ・若い人の起業機会創出（空き店舗補助、チャレンジショップ等）
- ・まちなかにおけるスタートアップ支援施設の活動拡充（emCAMPUS STUDIO, Musashi Innovation Lab CLUE など）

研究開発支援のまちなか展開

- ・豊橋技術科学大学との研究開発連携体制の構築
- ・東三河スタートアップ推進協議会との連携とまちなかの役割議論
- ・具体的な実証事業・実証実験の展開と情報集約・PR

action plan 5

未来を変えるチームを作る

未来を議論するプラットフォームとまちの世話役を育てる

豊橋まちなか未来会議の活動プラットフォーム構築

- ・参加メンバーの積極的な活動促進に向けた体制構築
(部会やワーキングの運営、チームビルディングなど)
- ・参加メンバーの拡充に向けた多様な関係者との連携強化
- ・まちなかの未来を継続的に議論していく場の設置と運営

まちづくりの運営を担う組織づくりの検討

- ・都市再生推進法人の活動に向けた基盤事業の開発と運営
- ・まち一帯での空き家空き店舗/テナント支援活動の充実 **leading project**
- ・まちづくり会社と自治会等地域コミュニティとの連携
(環境美化活動、防災防犯活動、日常的なコミュニケーション等)
- ・継続的なまちづくりの担い手の発掘と育成

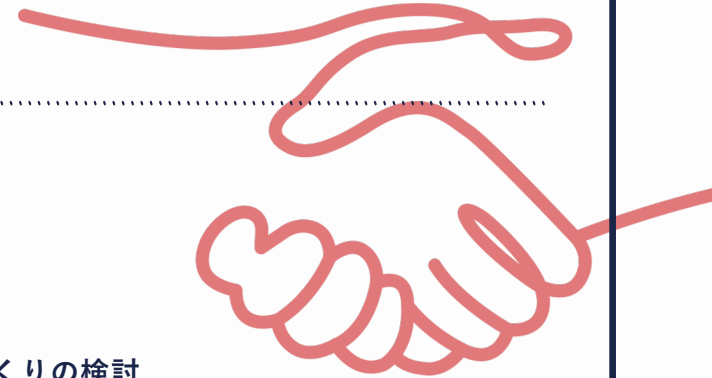
まちのデータ基盤を作り情報発信を強化する

まちのデータ基盤構築

- ・まちなかでのwi-fi センサーの設置や人流測定技術の活用
- ・東三河オープンデータの拡充と活用促進
- ・まちなかに関する色々な情報の収集と集約に向けた仕組みづくり
- ・東三河全体での観光・交通情報やマーケティング情報の集約

まちなかの積極的な情報発信

- ・まちなかの住民に向けた自治会活動やイベント等の情報発信 **leading project**
- ・豊橋市全体とまちなかそれぞれの情報の双方向発信
- ・豊橋市のブランディングに向けた情報発信・シティプロモーション



leading project 主要なプロジェクト

自治会まちなか活動の デジタル情報活用促進プロジェクト

自治会・事業者・行政・その他団体等の間で、よりスムーズかつ効率的な情報交換・活動実施のため、デジタルシステムを導入・運営していきます。

自治会内外の情報交換、行政情報・まちなか情報の提供などをデジタル導入により、効率的かつ継続的に実施できるようにし、情報交換以外の本質的な活動の充実を目指します。

主な推進機関

豊橋市自治連合会（松山校区自治会）

ほか推進機関

豊橋技術科学大学（小野研究室）、豊橋市



road map ロードマップ

2023

電子回覧板 アプリの導入

松山校区にて、希望者へアプリを導入し、試行を開始します。



2024-2025

運用と改善

自治会構成員だけでなく、事業者、行政などの利用も促進し、適切な運用方法を探ります。説明会の開催などを通じて登録を増やします。



2026以降

事業化及び 他自治会への展開

自治会、開発・運営者、事業者や行政等の利用者が三方良しとなるような事業モデルを確立します。他自治会などへの展開を進め、広く統一システムでの運用ができることを目指します。

leading project 主要なプロジェクト

空き家空き店舗 活用促進プロジェクト

魅力的なエリアを形成するため、エリア内の物件活用を連鎖的に進めます。
心地よい場所だな、あそこへ行きたいなと感じられるエリアをつくるとともに、地域の歴史を大切に価値を見出す文化の醸成を図ります。

主な推進機関

豊橋発展会連盟、TMO

ほか推進機関

豊橋市

road map ロードマップ

2023

意義を考え、 関心を高める

なぜ“空き物件”を活用するのか、どんな風に活用するとよいのかを考えるとともに空き物件活用への関心を高めます。



2024-2025

エリア特性の把握と それを生かした活用事例創出

まちなかの空き物件の状況について把握しつつ、エリアの特性を整理します。エリアの特性を生かすような空き物件の活用事例をつくっていきます。

2026以降

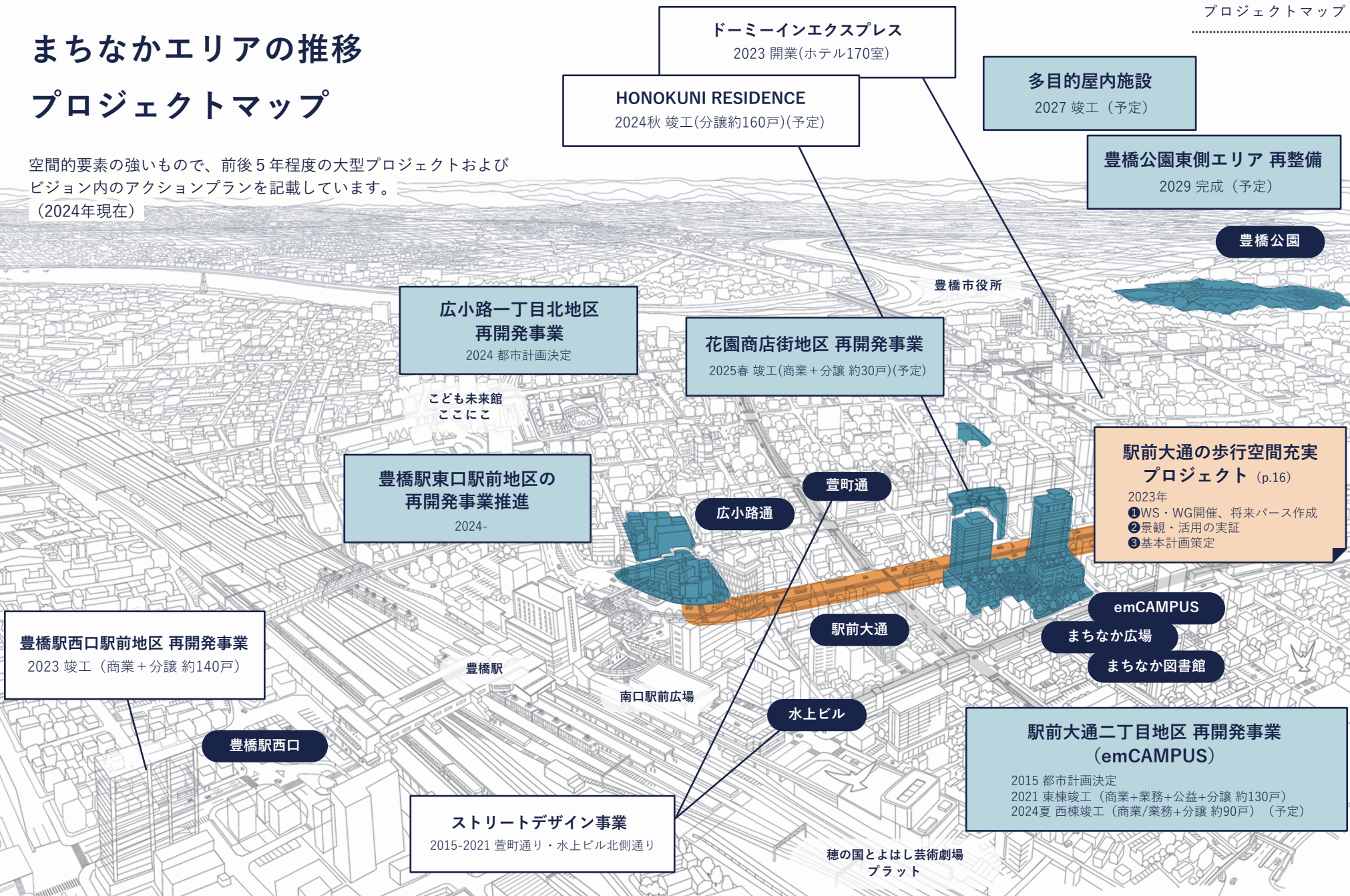
大家と事業者の マッチング促進

志ある大家や公目線を持った事業者が、連続的に物件活用を行える仕組みづくりを行います。結果、魅力的なエリアが形成されていくことを目指します。



まちなかエリアの推移 プロジェクトマップ

空間的要素の強いもので、前後5年程度の大型プロジェクトおよび
ビジョン内のアクションプランを記載しています。
(2024年現在)



2050年のまちなかの将来像

市民が願うまちなかの将来 30

2050年の将来像と市民の期待 32



豊橋まちなか 未来会議での 意見交換結果

[第1回常任部会] 2022年6月16日開催

まちなか未来会議のメンバーが集まり、「にぎわいと移動」をテーマにまちなかへの想いを語り合いました。



まちなかの魅力の再定義を！
商業から、〇〇へ

空き店舗ツアーやお帰り切符、
イベント、イルミネーション…

街を面で捉え、まちなか地区に
おける交通インフラとして

回遊性を！

駐車場が「足かせ」
でなく、まちなか地区を
楽しんでもらえるように

時間をかけたまちづくりで
これからの30年を描いていく

市民が誇らしく思えるまちへ
主体的にまちなかの未来に関わっていきたい

おさんぽマルシェなど
官民で日常・非日常の賑わいを！

空間が変わることで、
人の営み、暮らしが変わる！

地域への多角的な価値
・不動産、スペース運営
・観光DX

「豊かさに
橋をかけるまち」

まちづくり=商環境の整備！と言って
いっそうみんなを巻き込んでいこう。
水上ビルとまちなか広場
→水上ビルなき後もビジョンに！

夜店・浴衣と下駄、
縁日の風景は似合う！

イルミネーション
GoTo商店街…

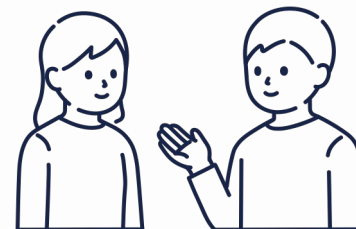
人の動線を意識したまちづくり

ゲートウェイ、
回遊、
まちなか滞留…

Attention!駅前大通
・歩行、緑空間拡充
・駅前平面動線

私たちがいいチームになろう！
バラバラから全体的へ、サイロからいいチーム
(心理的安全が確保されたチーム)へ。

1.SNSなど、2.データの共有
3.長期的な共通の目標

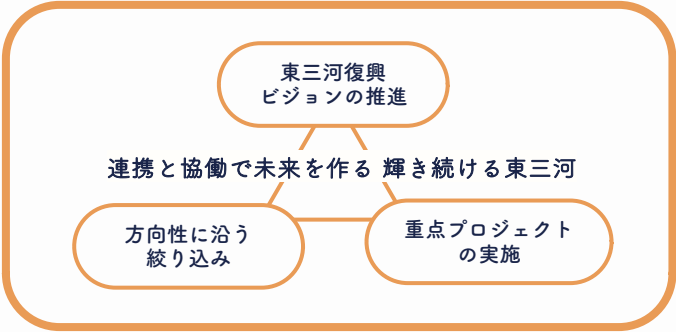


豊橋まちなか 未来会議での 意見交換結果

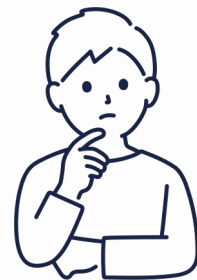
[第2回常任部会] 2022年7月14日開催

第2回では「学生／暮らし」をテーマに
語り合いました。

住民生活、産業経済、社会基盤、
2040年を展望し、2030年の重点施策の方向性7項目を設定



マンション居住者が増えました。
世帯数の増加・世帯人数の低下を感じます。
まちなか居住の指向性が高まっています。



駅前の魅力づくりへ！

- ・ ココアベニュー
- ・ emCAMPUS
- ・ ココラフロント
- ・ THE HOUSE 豊橋…

豊橋のまちなかを知らずに、
4年間を過ごす学生が多い！



豊橋はさまざまな業界・立場の人たちが連携して
やっぴいこうというムードがあるのがすごい！
そのような中で、「何をやるか」というところまで
持っていけるといいですね！

学生が主人公に！

フツ一の学生のまちなかへの関与増加

- ・ 居場所づくり・エリアリノベーション
- ・ まちなか下宿家賃補助検討
- ・ 意見をビジョンに活かすことで
複数年の関わりを持ってもらえるように

駅前、豊橋の窓口
としての松山学区

- ・ これからは住人だけでなく
事業者・企業なども自治会参加を
- ・ 防災などは全体として考えなければならない
- ・ 新旧住民の異文化交流を
- ・ 神野新田物語は地域社会を作っていくイメージが
できるのでおすすめ

まちなかと大学の
関わりを考えたい

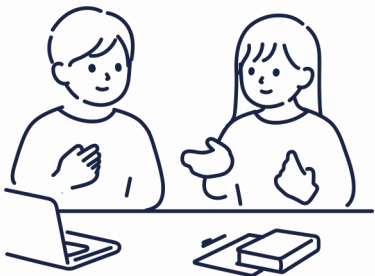
大学でつなぐ役割を！

学生が関わり、色んなことを決めていけるまちなかに
細々した近隣の活動も一生懸命やっているよ

高大連携も！

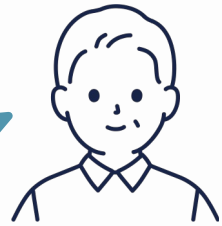
つどいの広場を
学内に

まちなかと大学
ハイブリット講座



この地域からスタートアップを
育てる取り組み

歩くまちづくりへ！



わざわざ巡る
スタンプラリーなど…

とよはし未来ビジョンワークショップ

豊橋まちなか未来会議では、未来のまちなかに対する市民の想いを議論するため、2022年8月19日(金)に、とよはし未来ビジョンワークショップを実施しました。

市民や関係者が約80人集まり、8つの班に分かれて、未来のまちなかに対する想いや期待、夢について語り合い、「こんな風になったらいいな」というアイデアや意見を取りまとめています。

とよはし未来ビジョンワークショップ

100人でまちなかの未来を描こう

開催結果報告



“まちなかへの期待は？”の画用紙を掲げて

当日の流れ

1

はじめに・アイスブレイク

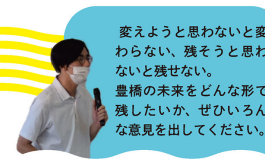
まずアイスブレイクとして、参加者それぞれが想う「まちなかへの期待」を画用紙に描き自己紹介。みんなで画用紙を掲げて一斉にバンザイ！をした後に、各班に分かれて自己紹介をしました。



2

話題提供

30年後の未来を考えるにあたって、豊橋のまちなかの歴史を、江戸時代から現在に至るまで、30年ごとに振り返りました。先人の方々が、意気をもってこのまちを変えてきたことが見えてきました。



変えようと思わないと変わらない、残そうと思わないと残せない。豊橋の未来をどんな形で残したいか、ぜひいろんな意見を出してください。

3

グループワーク・発表
“未来のまちなかを描こう”

グループごとに、まちなかで「こんな風に過ごしたい」や「こんな風になったらいいな」のアイデアを集めました。各班で様々なアイデアや意見が出て盛り上がりしました！



4

まとめ



世代や立場が変われば、まちに求める将来像やあり方も変わります。今回のワークショップでは、多種多様な方が集まり「未来のまちなか」の将来像やあり方を話し合えたことが財産だと思います。発表では各グループから多様な視点や共通する意見が出されました。これから事務局では、皆様のアイデアや意見をふまえて「未来ビジョン」をまとめていきます。「未来ビジョン」が出来た後からが大事、ぜひ関わってほしいです。

講評：豊橋技術科学大学 小野悠准教授

1班

ぐるぐるぶらぶら
過ごせる
「ぐるぶら」
なまちなか

2班

歩いて楽しく
暮らせる
「ウォークアブルシティ」
「365日楽しいまち」

3班

平日働くのも、
休日ゆっくり過ごすのも、
「回遊」できる
まちなか

4班

特徴のある
「ゾーニング」と
「回遊」できる
まちなか

5班

まちなか図書館や水上ビル、
豊橋の美味しいごはん
「豊橋のポテンシャル
を活かそう！」

6班

気軽に集まり
話を聞ける場所、
チャレンジを
応援してくれる環境。
「人と人がつながれるまち」

7班

「もう豊橋なんて…
とは言わない」

8班

住みたい！
遊びに行きたい！
歩きたい！
「あこがれの街」

とよはし未来ビジョンワークショップで生まれた

2050年の夢の将来像と市民の期待

このイラストは、2050年のまちなかに対する市民ワークショップ等の意見やアイデアをまとめたイメージ図です。この期待をもとに、これから様々な活動を進めていきます。

※このイラストは、2050年のまちなかに対する市民ワークショップ等の意見やアイデアをまとめたイメージ図であり、このイラストの実現をそのまま目指しているものではありません。

6 ここにこ・松葉公園エリア

子どもからお年寄りまで憩えるエリアに！

7 広小路通エリア

子どもからお年寄りまで憩えるエリアに！

8 豊橋駅西エリア

新たな機能で
にぎやかなエリアに！

1 豊橋駅前エリア

来る人にもまちの人にも
もっと便利なエリアに！

5 東海道・新本町・花園エリア

伝統や文化と新たなチャレンジが
融合したエリアに！

4 豊橋公園エリア

みどり豊かで、歴史・芸術・
スポーツが活発なエリアに！

3 駅前大通エリア

緑を大切にした
歩行者が憩えるエリアに！

2 水上ビルエリア

ここにしかない
魅力が詰まったエリアに！

まちの玄関口としての機能強化

- 玄関口としてホテルやカフェが充実
- 案内機能が充実
- まちなかで多様な人に出会えるツアー施設があり、学生がツアーガイドを担う
- 路面電車の路線が増える
- モノレールが出来てもいい
- 自転車などを乗ったり置いたりできる

多様な使い方への対応

- 毎日イベントが開催されている
- イベント空間の機能が充実（電源など）
- 路上演奏や文化的な活動などができる
- ペDESTリアンデッキでお酒が飲める

1 豊橋駅前エリア

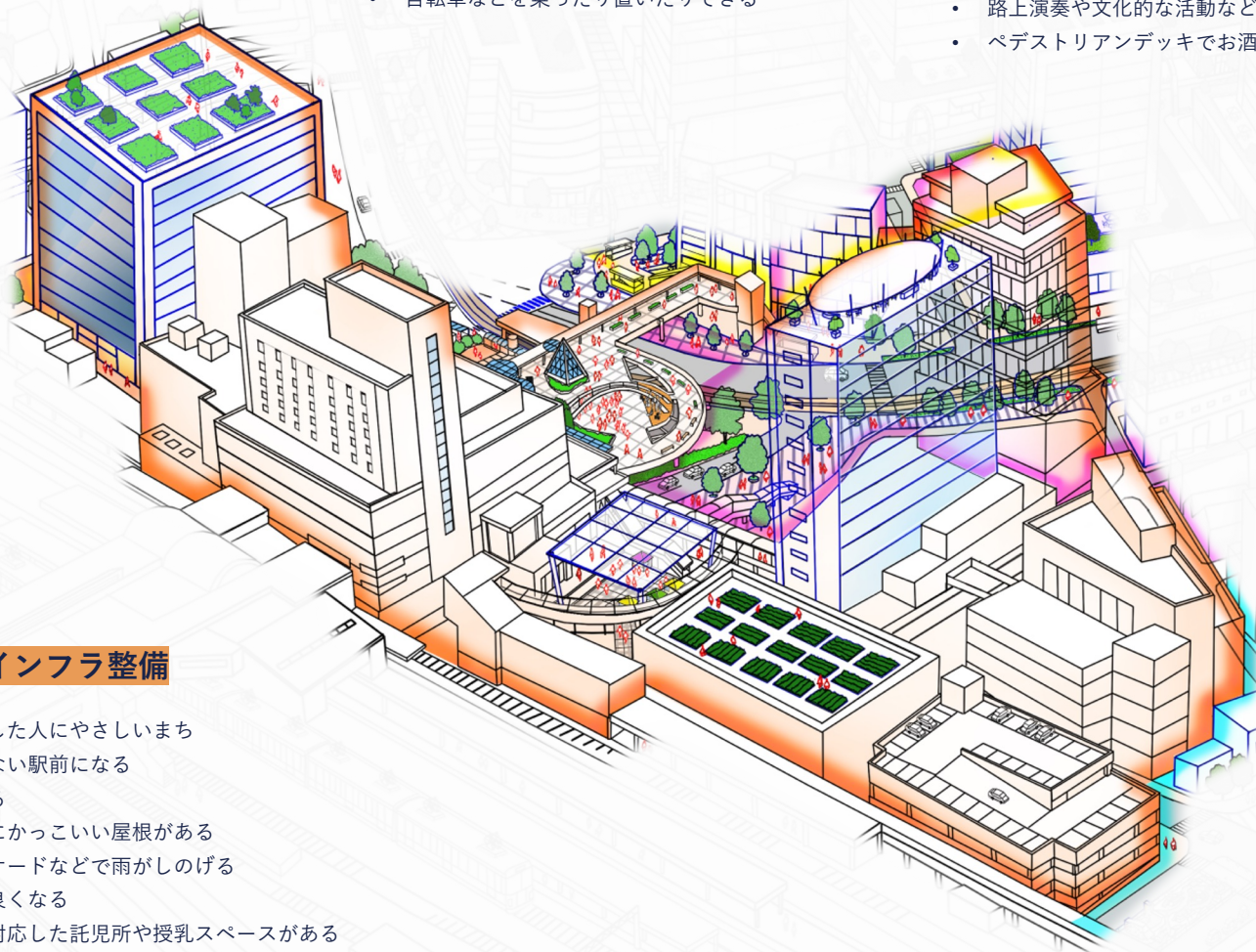
来る人にもまちの人にも、もっと便利なエリアに！

まちの人にとっての利便性向上

- 店舗が充実し、駅前で欲しいものが全部そろろう
- 24時間営業のスーパーがある
- スポーツやスケボーができる屋外空間がある
- 複合娯楽施設がある

駅前空間のインフラ整備

- 水や緑を活用した人にやさしいまち
- 上下の移動のない駅前になる
- 涼む場所がある
- 南口駅前広場にかっこいい屋根がある
- 地下街やアーケードなどで雨がしのげる
- ネット環境が良くなる
- 幅広い時間に対応した託児所や授乳スペースがある



2 水上ビルエリア

ここにしかない魅力が詰まったエリアに！

水上ビルを活かしたまちづくり

- 個性的・魅力的な店舗がある
- マニアックなものがそろった専門店がある
- 屋外レストランやオシャレなお店もある
- 大学生にとって学びの場でもある
- クリエイターが集う長屋がある
- DIYやリノベーション体験ができる
- 食べ歩きができる
- パン屋さんがある
- スタートアップに対する補助が充実
- 健康志向の飲食店をやりたい
- ショートステイホテルがある
- 毎週イベントがある
- 道路にびっしりとキッチンカーが来たり、軽トラ市のようなイベントがある

親しみやすさの向上

- 生活必需品を購入できる
- スーパーや古本屋がある
- 水上ビルの情報を知る機会がある
- 水上ビルに入居するための窓口
- 多言語やピクトグラムの案内が充実

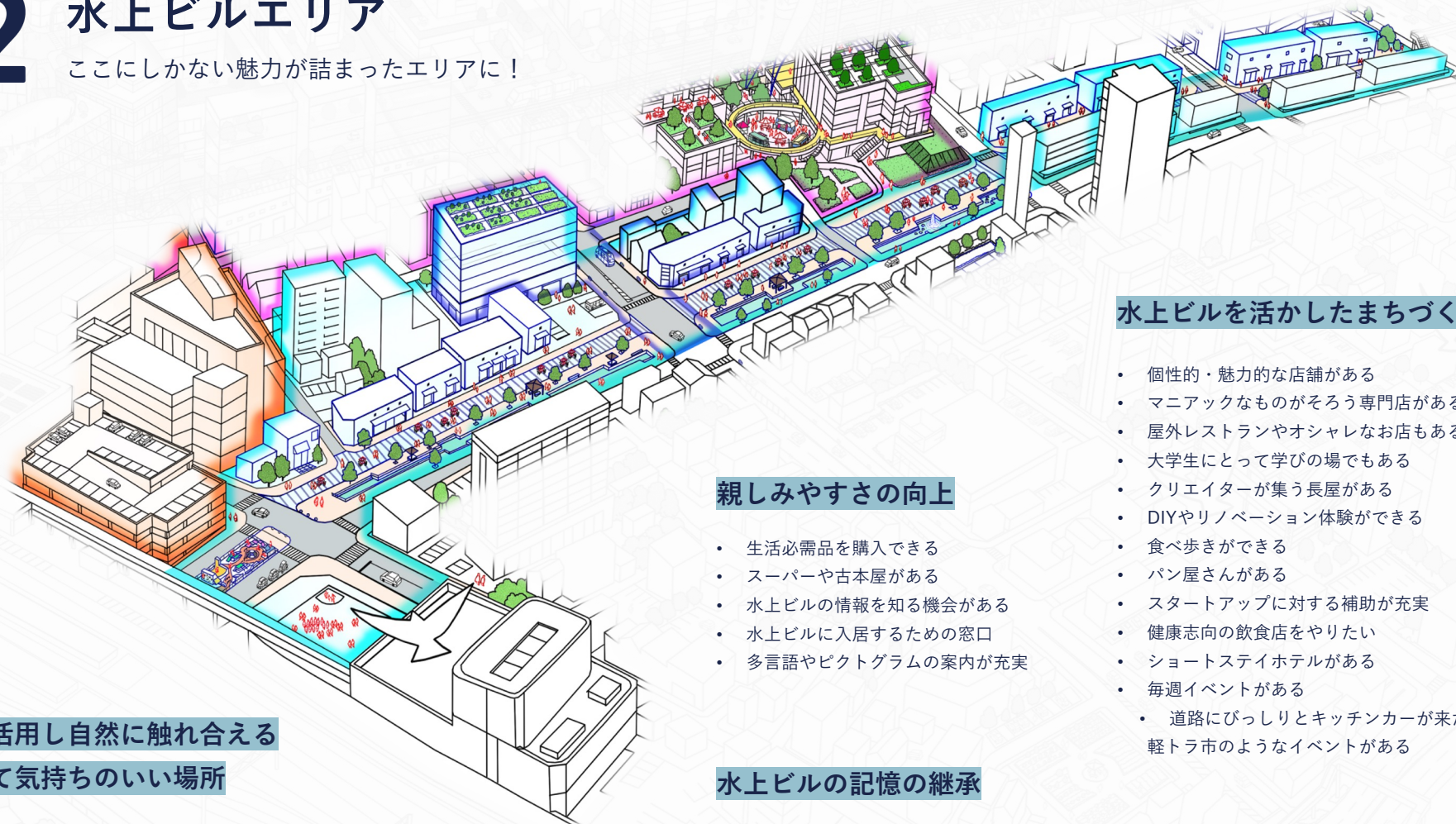
水上ビルの記憶の継承

- 水上ビルが残ってほしい
- 水上ビルの記憶を何らかの形で残したい
- 古さ・新しさが混在する楽しさを残したい
- 古い建物を資材として活用したい
- 水上ビルのお引越し

水を活用し自然に触れ合える

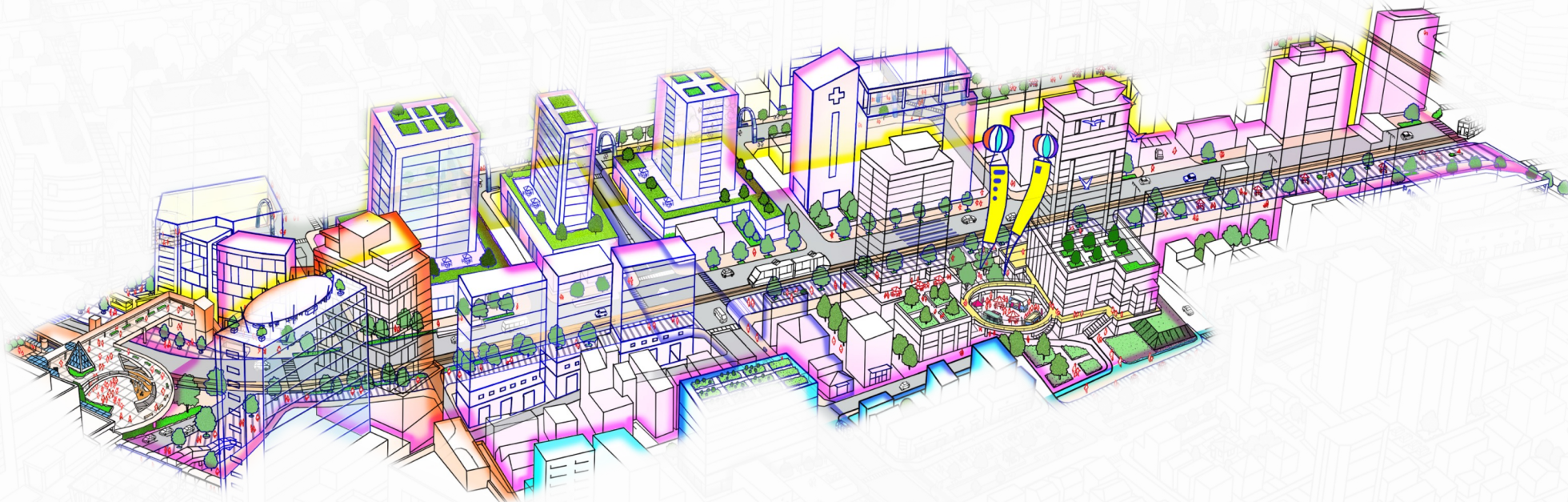
歩いて気持ちのいい場所

- 水上ビルから水面が見える
- 水辺で過ごすことができる
- 水上ビルは一部残って、水辺に見える新しい建物となる
- 用水を活用した噴水がある
- 用水の周りにショッピングモールがある
- 緑が多くゆったり過ごせる



3 駅前大通エリア

緑を大切にしたい、歩行者が憩えるエリアに！



まちなか広場の活用

- まちなか広場で屋外映画鑑賞ができる
- まちなか広場でたくさんのイベントが開催される
- 大人も子供も楽しむことができる

歩行環境

- 歩行者空間を活かした賑わいがある
- ベンチやイス設置による滞留スペースがある
- 駅前大通の歩行空間を広くする

豊かなみどり

- みどりが豊かで、市電とあまった良い風景がある
- 緑の下で休憩したり、芝生で寝転んだり、ゆっくり過ごせる憩いの場

他にも…

- 駅前大通の広さを活用していろいろな取り組みができる
- 駅前大通がシンボルロードにふさわしい景観を有する通りになる

4 豊橋公園エリア

みどり豊かで、
歴史・芸術・スポーツが活発なエリアに！

みどりと歴史

- 自然を楽しむことができる
- 公園と連携した住宅がある
- 都市化が進んでもまちなかの貴重なみどりが残っている
- 季節変化を感じられる植物がある
- 吉田城が守られ今より有名になる
- 歴史を活かした場所である

文化・芸術

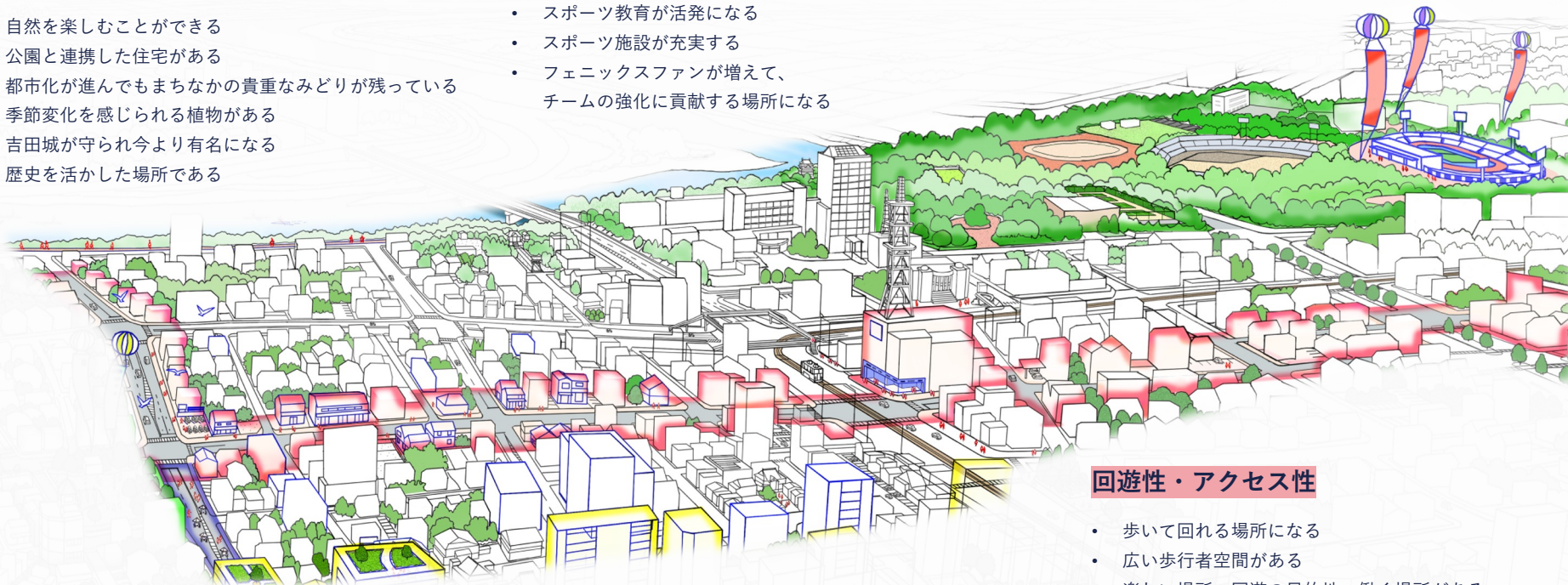
- 吉田文学や造パラが有名になる
- 映画の後に散歩をしたい
- 美術博物館が充実し、子連れで気軽に立ち寄れる場所になる
- 若手の活躍の場になる

スポーツ

- スポーツ観戦できる公園になる
- スポーツ教育が活発になる
- スポーツ施設が充実する
- フェニックスファンが増えて、チームの強化に貢献する場所になる

他にも…

- 公園で様々な活動ができる場所になる
- ロケをしやすい公園や公会堂を活かしたイベントが増える
- 本格的なアスレチック施設がある
- 1日中楽しめるような場所になる



回遊性・アクセス性

- 歩いて回れる場所になる
- 広い歩行者空間がある
- 楽しい場所、回遊の目的地、働く場所がある
- 市電が延伸されている

5

東海道・新本町・花園エリア

伝統や文化と新たなチャレンジが融合したエリアに！

伝統・文化

- ノスタルジックさが活かされている
- 門前町のような雰囲気になる
- お寺などの施設を活用している

高齢者の安心

- 総合病院がある

新たなチャレンジ

- 花園商店街を中心に若者が出店・チャレンジしやすい場所
- 男性向けアパレル店舗の充実

ここにこ

- 静かに勉強できる場所がある
- 学生にとっても自習以外に使える場所になる
- メタバース体験(VR 体験)施設がある

松葉公園

- 行ってみたく遊びたくなる公園になる
- 公園が芝生になる
- ペットも過ごしやすい場所になる
- イベントで活用され人気の場所になる

子ども・子育て

- このエリアに来れば子育てに困ることがないという場所になる
- 子どもが喜ぶ場所が増える
- 子育てしやすいよう病院や診療所が増える
- ベビーカーでも移動しやすい歩道になる
- 安心安全なお店が多いエリアになる

まちなかとの連携

- ここにこの体験ゾーンがまちなかでできる
- 駅とここにこのつながりが強化される
- 市電が延伸する



若者と大人

- まちなかに大学がある
- 若い人が活力をもって働く場所がある
- 喫茶店があちこちにある
- 古本屋がほしい

6

ここにこ・ 松葉公園エリア

子どもからお年寄りまで憩えるエリアに！

7 広小路通エリア

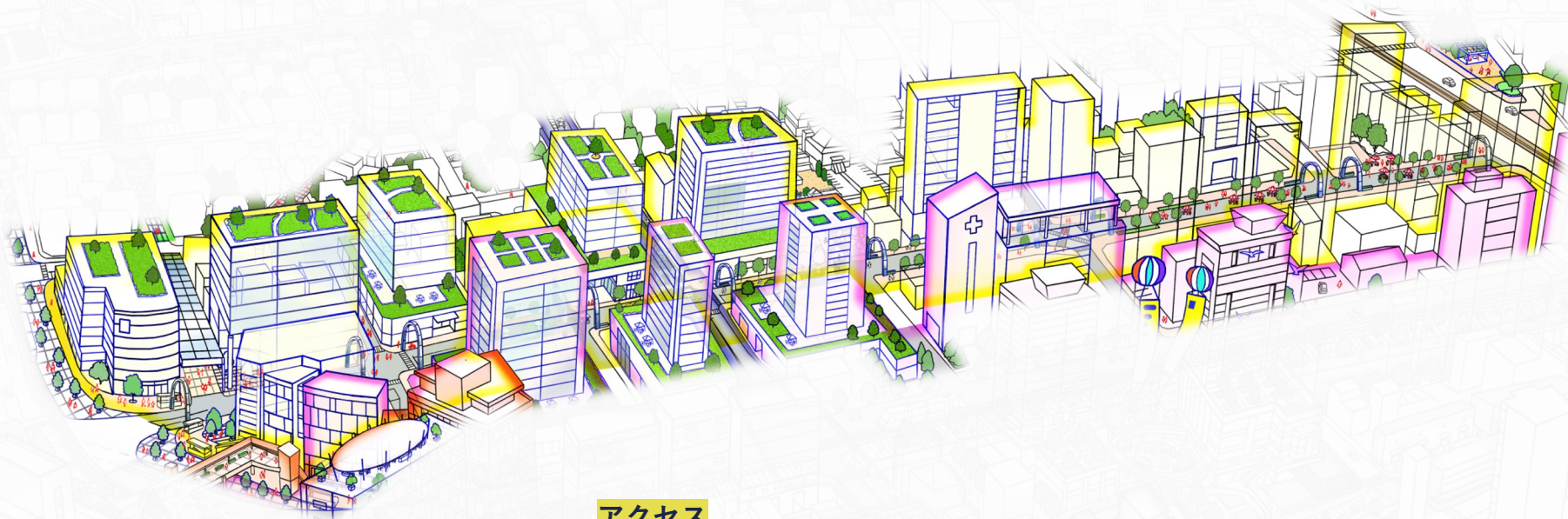
歩いて楽しく、活力あるエリアに！

歩行環境

- 歩行者天国が継続されている
- 今よりもっと歩きやすい空間になる
- 通りにテラス席がある
- 休憩できる場所がある

商業・娯楽施設

- 日中も遊べる施設がある
- 映画館がある
- 良い感じの飲食店、個人商店がたくさんある
- 多様な店舗がある



アクセス

- バスや市電からアクセスしやすくなる

働く環境

- 若い人が起業したり、新たなチャレンジができる場所がある
- 高校生や大学生がアルバイトしやすい場所がある
- 駅近くや建物の2・3階にオフィスがある
- 気軽に入れるコワーキングスペースがある

商業・飲食

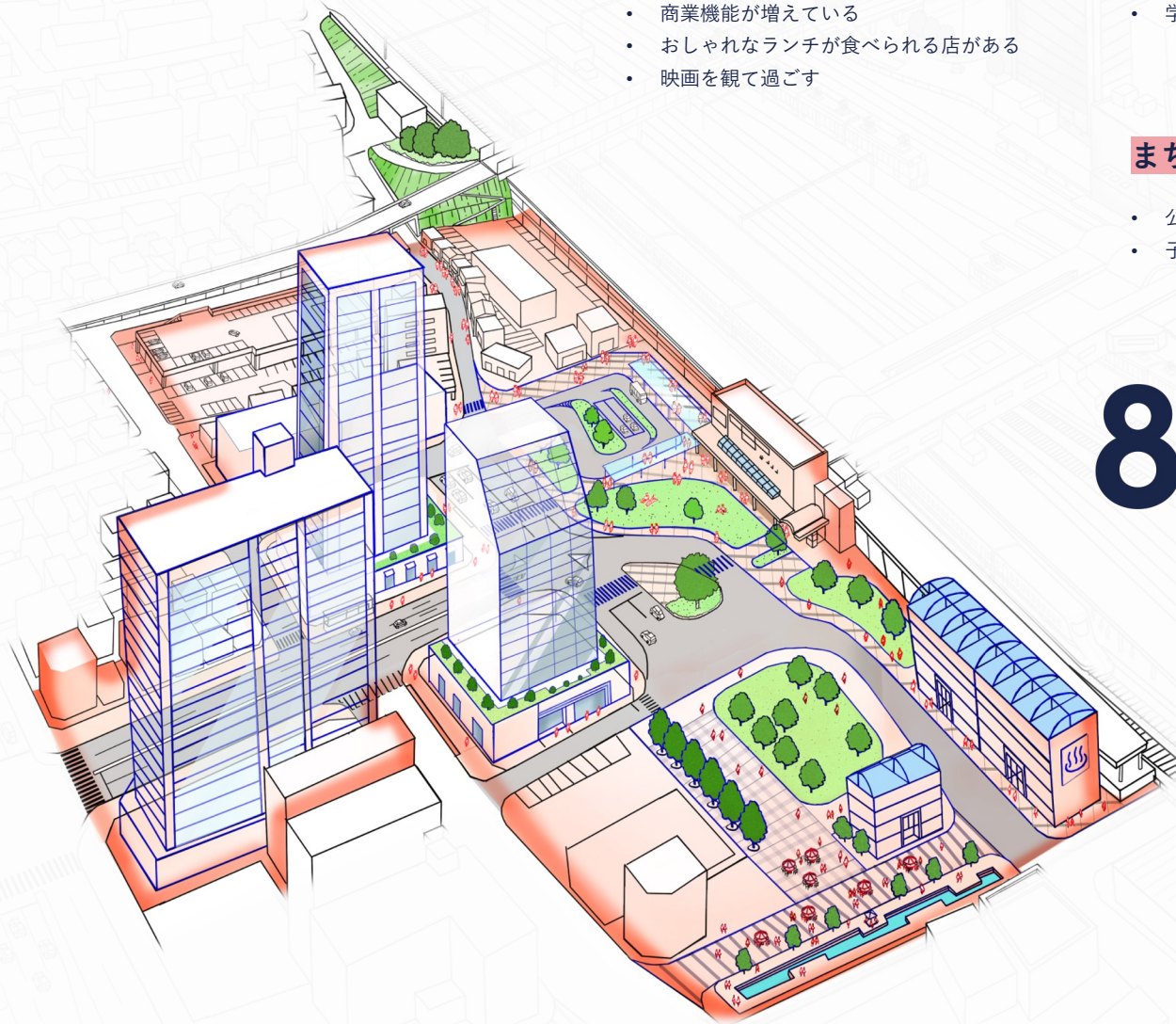
- 遊びの帰りに飲める場所になる
- 商業機能が増えている
- おしゃれなランチが食べられる店がある
- 映画を観て過ごす

ウェルネスゾーン・教育

- 温泉、リラクゼーション、ジム、ホテルなどがある
- 学生が駅近くで学べる場を作る

まちの人にとっての利便性向上

- 公園など気軽に滞在できる空間がある
- 子どもの賑わいを感じられる場所がある



8 豊橋駅西エリア

新たな機能でにぎやかなエリアに！

豊橋市・まちなかとは？

まちなかの考え方・位置づけ	42
豊橋市の概況	43
まちなかの現在	48
まちなかのこれから	66



東三河地域・豊川流域の玄関口

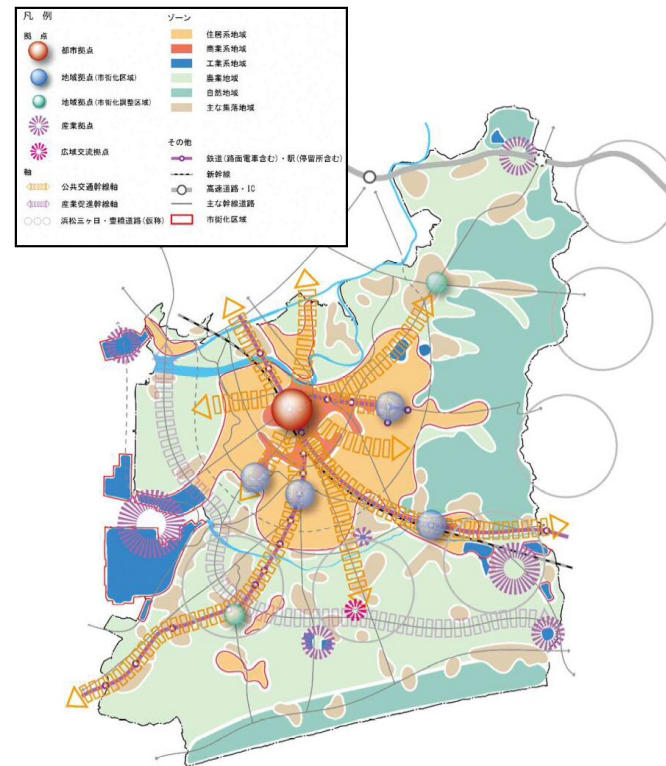
豊橋市は豊かな豊川流域の恵みを受ける東三河地域における最大の都市であり、豊橋駅周辺地区は、豊橋市全体（人口約37万人）の都市拠点に位置付けられています。豊橋市のまちなかは、東三河地域（人口約74万人）の玄関口として、周辺地域や市内の他の地域拠点、産業拠点、広域交流拠点と連携しながら相互に成長し、地域経済や暮らしの好循環を作る役割を担っています。

豊川流域



出典：とよがわの川づくり

豊橋市の将来都市構造図



出典：豊橋市都市計画マスタープラン（2021-2030）

豊橋市は住みやすいまち？

民間企業や不動産情報サイトによる「住みやすさ」に関するランキングの多くで、豊橋市は県内、中部圏内、内容によっては全国で高い評価を得ています。評価の視点は調査によって異なりますが、都市機能へのアクセスや自然の近さ、気候などが高く評価されています。

生活満足度



1位

(全国主要83都市のうち)

出典：(株)ブランド総合研究所市版SDGs調査2020

「住みたい」街



3位

(愛知県の主要鉄道駅のうち)

出典：SUUMO住みたい街ランキング2020 愛知県版/名古屋市版

「共働き子育てしやすい」街



3位

(全国357自治体のうち)

出典：日経xwoman・日本経済新聞社

共働き子育てしやすい街ランキング2022

「買って住みたい」街



7位

(愛知県・岐阜県・三重県の主要鉄道駅のうち)

出典：2022年LIFULL HOME'S住みたい街ランキング

幸福度



3位

(全国主要83都市のうち)

出典：(株)ブランド総合研究所市版SDGs調査2020

「住み続けたい」街



15位

(愛知県・岐阜県・三重県の全自治体のうち)

出典：(株)大東建託 住み続けたい街自治体ランキング<東海版>

「借りて住みたい」街



2位

(愛知県・岐阜県・三重県の主要鉄道駅のうち)

出典：2022年LIFULL HOME'S住みたい街ランキング

「住みたい」街



18位

(愛知県・岐阜県・三重県の全自治体のうち)

出典：(株)大東建託 住み続けたい街自治体ランキング<東海版>

バランスが良く自律的なまち

豊橋市は、中核市にふさわしい都市規模、経済規模を有し、一次産業から三次産業までバランスよく発展しています。地域経済の循環率が94.8%と高く、自治会加入率も約7割と、同規模都市の平均（66.3%）より高い傾向にあります。



市の人口

371,920 人

(2020年,国勢調査 県内5位)



面積

261.9 km²

(2022年,市ホームページ 県内6位)



市内
総生産

1,645,418 百万円

(2021年,あいちの市町村民経済計算, 県内3位)



農業産出額

3,871 千万円

(2020年,東海農政局 県内2位、全国13位)



製造品
出荷額等

139,004 千万円

(2019年,市ホームページ 県内10位)



商品
販売額

108,986 千万円

(2016年,経済センサス 県内3位)



地域経済循環率

94.8 %

((公社)東三河地域研究センターが2015データをもとに算出)

付加価値額を所得で除いた値・地域経済の自立度を示す



自治会加入率

69.8 %

(2022年,豊橋市調べ)

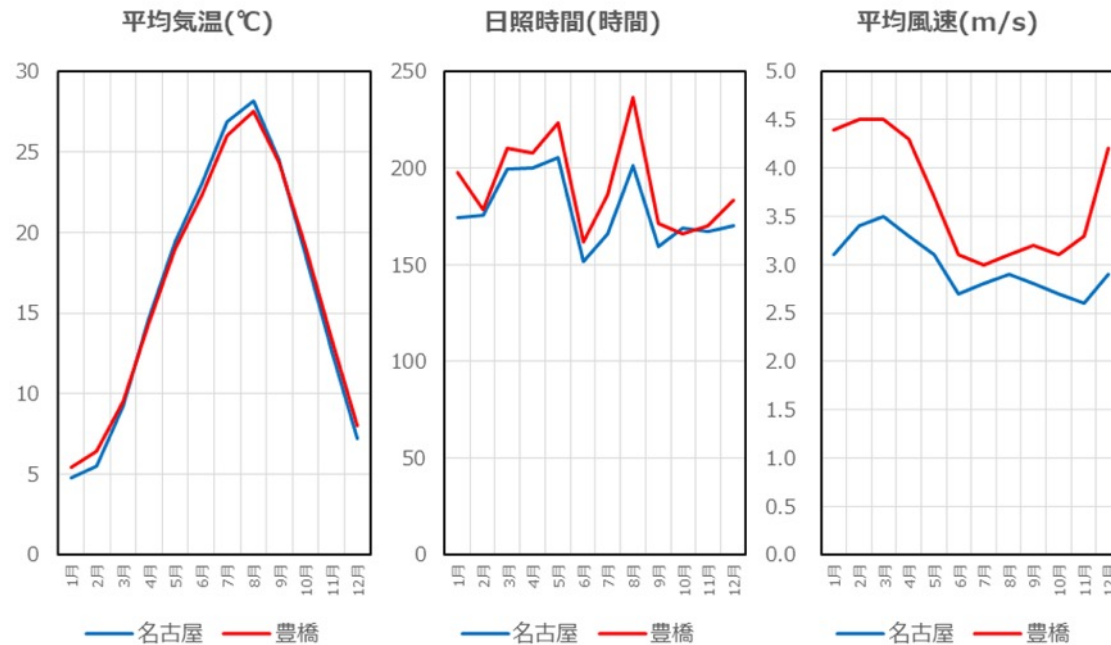
全国平均66.3%(総務省調べ、2022年 人口30~50万人都市平均)

温暖な気候と豊かな自然

豊橋市の気象の平年値を愛知県の県庁所在地の名古屋市と比較すると、日照時間が1年を通じて長い一方、特に冬から春にかけて風が強いことが特徴です。

市域の61.8%が緑に覆われており、市街地を離れればすぐに豊かな自然にアクセスできる環境にあります。

豊橋市の平均気温、日照時間、平均風速の平年値（名古屋市の比較）



豊橋市の緑被地の概況（2018年）

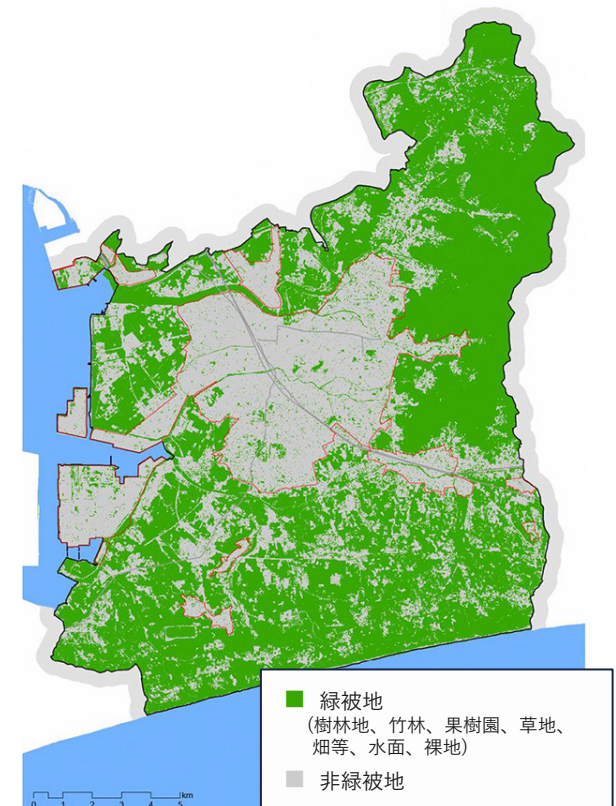


図 豊橋市緑被図 / 出典：愛知県作成緑被図

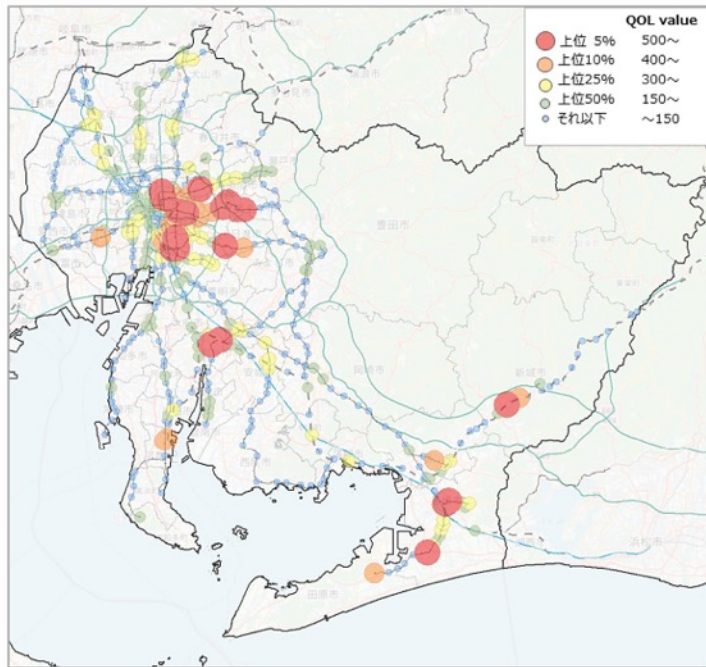
生活の質から見た住みやすさ

利便性や住宅環境の快適性、防犯や防災など、生活環境を総合的に評価する「生活の質(QOL)」評価では、豊橋駅周辺地区や大清水地区が県内上位5%に含まれており、客観的なデータからも住みやすさが裏付けられています。

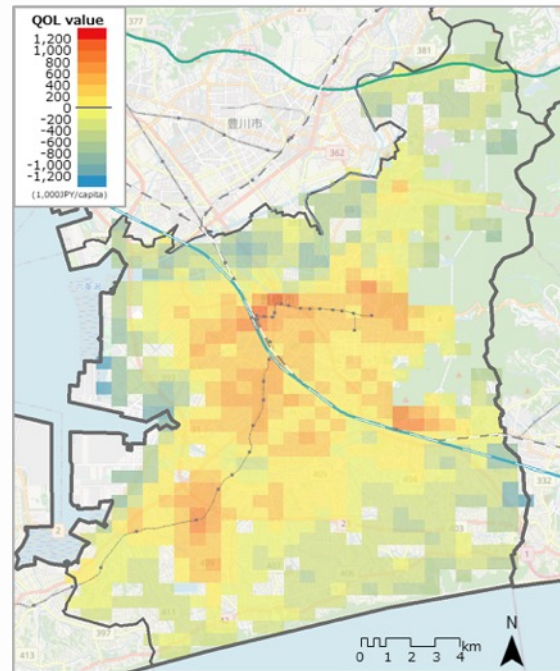
市内でのQOL値の分布をみると、豊橋駅周辺が最も高く、鉄道駅周辺を中心に住みやすいエリアが広く分布しています。

QOL値の内訳について全国平均との比較を行うと、市全域では通勤や住宅費の面で特にメリットが大きいのに加え、豊橋駅周辺地区では買い物や各都市機能へのアクセスが高い一方で、緑被率や騒音の面で他のエリアに劣っている部分があります。

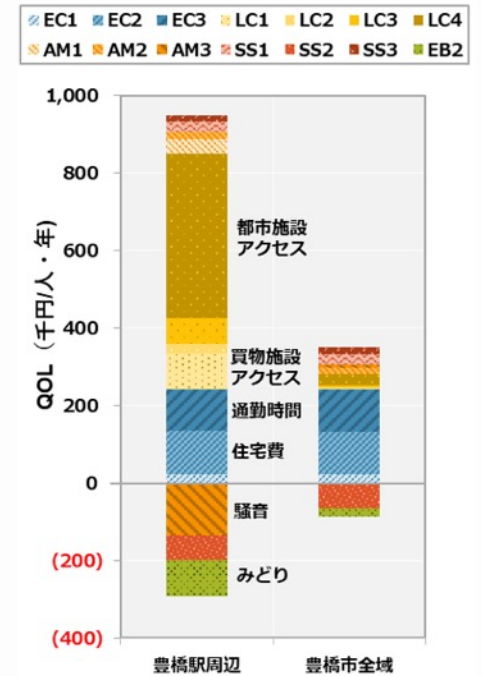
愛知県内の駅別QOL値



500mメッシュ別QOL値



QOL値の内訳 (全国平均が0)



出典：林良嗣ら（編）交通・都市計画のQOL主流化——経済成長から個人の幸福へ

第6次豊橋市総合計画

第6次豊橋市総合計画では、基本理念を「私たちがつくる 未来をつくる」として、自分たちで未来を切り開いていくという強い気持ちと、その具体的な行動を求めています。目指すまちの姿も「未来を担う人を育むまち・豊橋」として、人に着目した将来像を設定しています。

まちづくり戦略においては「しごとづくり」、定住や交流人口を増やす「ひとの流れづくり」、より良い暮らしを実現するための「子育て・教育環境づくり」と「都市空間づくり」を戦略としています。

まちづくりの基本理念

私たちがつくる 未来をつくる

いま私たちに求められるのは、未来を切り拓いていくという強い気持ち、そして互いを信頼し思いやる気持ちと共感力を持って、具体的に行動することです。
また、国連が提唱した「持続可能な開発目標(SDGs)」は、世界が抱えるさまざまな課題の解決を目指すもので、地域社会を支えるまちづくりにも通じます。
まちづくりの主役は、まぎれもなく私たち一人ひとりです。SDGsの考え方を規範とし、みんながまちづくりを自分事として考え、主体的に、そしてさまざまなパートナーとともに活動していくことで、新しい時代に対応した、夢と希望に満ちあふれる未来の豊橋を創造します。



目指すまちの姿

未来を担う 人を育むまち・豊橋

●8つの目指すまちの姿

魅力的なまちは、そこに暮らす、あるいは関わる人たちによってつくられ、その想いとともにも後世へと引き継がれていきます。そこで最も大切なことは、人を育むことです。人がまちをつくり、にぎわいと活気が生まれ、さらに多くの人が引き寄せられる。人とまちがともに未来へと成長を続け、持続可能なまちを目指します。
また、私たちが目指すまちの姿は、多様な分野に及んでいます。そこで、各分野の目指すまちの姿として、次の8つを掲げます。

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1 豊かな人間性を備え、未来を創る人が育つまち | 2 活みなぎり、はつらつと働けるまち |
| 3 命の安全、心の安心が確保されたまち | 4 みんなで支え合い、笑顔で健やかに暮らせるまち |
| 5 互いを尊重し合い、心豊かに暮らせるまち | 6 魅力にあふれ、いきいきとにぎわいあるまち |
| 7 自然と共生し、地球環境を大切にするまち | 8 暮らしの基盤が整った、便利で快適なまち |

まちづくり戦略の構造

1 活みなぎる『しごとづくり』

- 特に注力**
- ✓豊橋で“若者”や“女性”が働きたくなる仕事の創出
 - ✓豊橋が誇る技術の伝承と新しい技術の導入

施策の基本方針

1. 人材力の強化と事業承継への支援
2. 新ビジネスの創出と経営革新
3. 産業の魅力発信と誘致

2 選ばれ集う『ひとの流れづくり』

- 特に注力**
- ✓若い世代を惹きつけるまちの魅力創造
 - ✓まちなかエリアへの人の呼び込み

施策の基本方針

1. 定住都市の推進
2. 交流・関係人口の拡大
3. 移住の促進

3 笑顔あふれる『子育て・教育環境づくり』

- 特に注力**
- ✓子育てと仕事を両立できる環境づくり
 - ✓子どもたちの“学びたい”をかなえるための環境づくり

施策の基本方針

1. 結婚から出産、子育てまでの包括的支援
2. 働きながら子育てできる環境づくり
3. 質の高い教育

4 持続可能で暮らしやすい『都市空間づくり』

- 特に注力**
- ✓利便性の高い移動環境の創出
 - ✓再生可能エネルギー利用100%のまちづくり

施策の基本方針

1. 便利で快適に暮らせるまちの形成
2. 既存ストックの有効活用
3. 暮らしの安全・安心の確保
4. 自立循環型社会の形成

共通認識

多様な人材の活躍を推進する

新しい時代の流れを力にする

新しい生活様式に適應する

若者、女性に力を置く

将来に向かって『人口減少に歯止め』をかける

500年の歴史が積み重なるまちなか

豊橋のまちなかは、500年以上前の吉田城築城から、現在の豊橋公園や東海道沿いを中心に栄えてきました。
豊橋駅開業に伴い、駅周辺と豊橋公園を核として路面電車が軸となりながら、まちなかが形成されてきました。

1497年	今橋城（後の吉田城）築城
1888年	牟呂用水通水
1906年	市制施行
1925年	市内電車開通
1929年	国鉄豊橋駅西駅竣工
1945年	豊橋大空襲
1950年	豊橋民衆駅営業開始
1964年	東海道新幹線開通・大豊ビル（水上ビル）開業
1998年	豊橋駅東口駅前広場・松葉公園完成
2008年	こども未来館ここここ・新豊橋駅 ココラフロント・ココラアベニュー開業
2013年	穂の国とよはし芸術劇場「プラット」開業
2021年	emCAMPUS EAST・ まちなか図書館・まちなか広場開業



▲吉田城と東海道

出典：三州吉田城図



▲1950年ごろの豊橋駅 出典：豊橋・田原の昭和（豊橋市美術博物館提供）

まちなかは東三河の玄関口

豊橋駅は、名鉄名古屋本線やJR東海道本線・飯田線、更には東海道新幹線など、様々な交通機関が接続する総合駅であり、東三河地域と各地域とを接続する玄関口の役割を果たしています。

市内各地域との接続性を見ても、豊橋鉄道の市内線や渥美線、豊鉄バスの路線バス網の起点となっています。

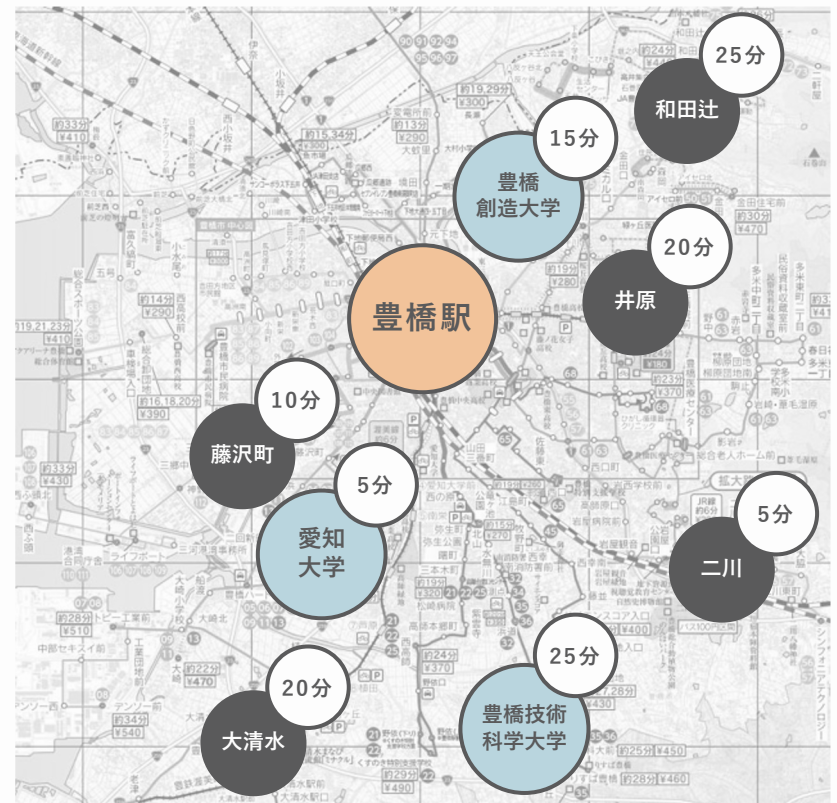
市内の主要拠点のほとんどから30分以内でアクセス可能な環境が整っており、地域内外をつなぐ重要な交通結節点です。

■国内および地域間主要都市への所要時間



出典：地理院地図

■市内主要拠点への所要時間（公共交通）



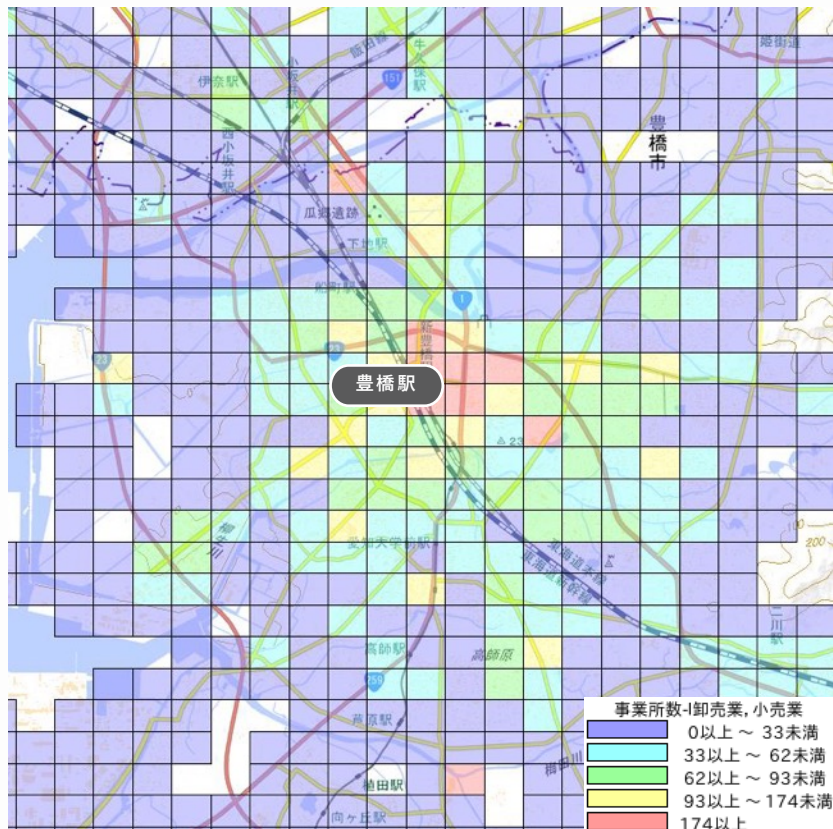
出典：豊橋市公共交通マップ

商業・都市機能が集積

まちなかには駅ビルや再開発施設、商店街をはじめ、多様な商業機能が集積しており、地域商業をけん引しています。

さらに、行政施設や文化施設を中心に広域的な都市機能がそろっているほか、宿泊施設や金融施設などの民間施設も集中しています。

■卸売業・小売業の事業所数分布（2016年）



出典：2016年経済センサス活動調査

■豊橋駅約1km圏の主要な都市施設

主要行政施設

- ・豊橋市役所
- ・愛知県東三河総合庁舎
- ・豊橋地方合同庁舎
- ・豊橋簡易裁判所
- ・旅券センター窓口センター、公証人役場等（emCAMPUS EAST）

文化・スポーツ施設

- ・豊橋市公会堂
- ・豊橋市美術博物館
- ・穂の国とよはし芸術劇場プラット
- ・豊橋市まちなか図書館
- ・豊橋公園（陸上競技場、球場ほか）

医療施設

- ・成田記念病院

子育て支援施設

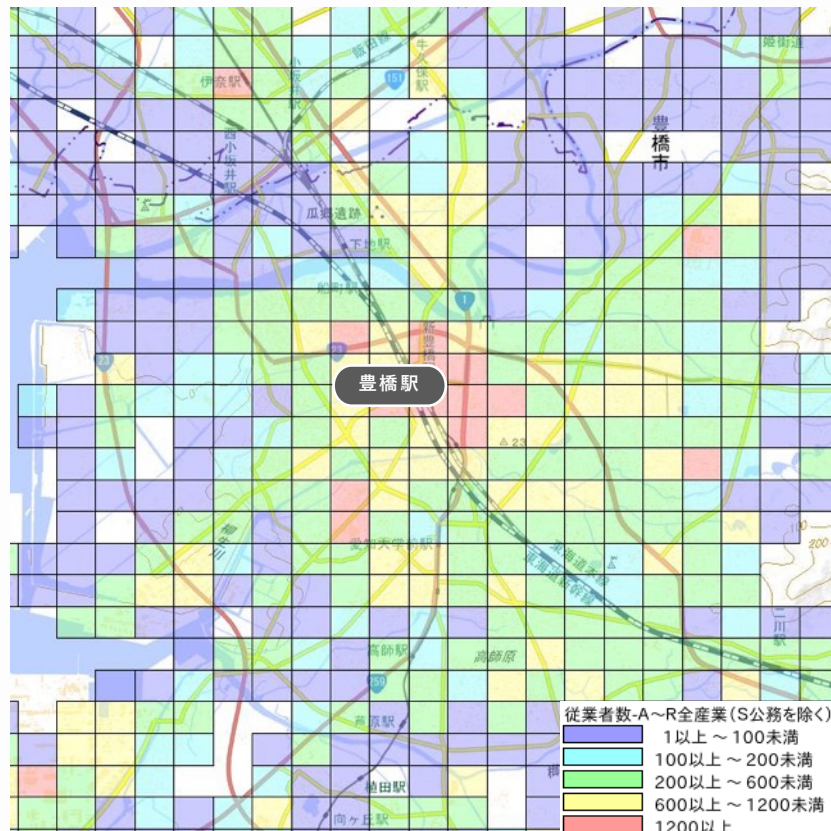
- ・こども未来館ここにこ

働く場も多く集まる

まちなかには従業者数も多く、市の雇用・産業の中心的な役割を果たしています。

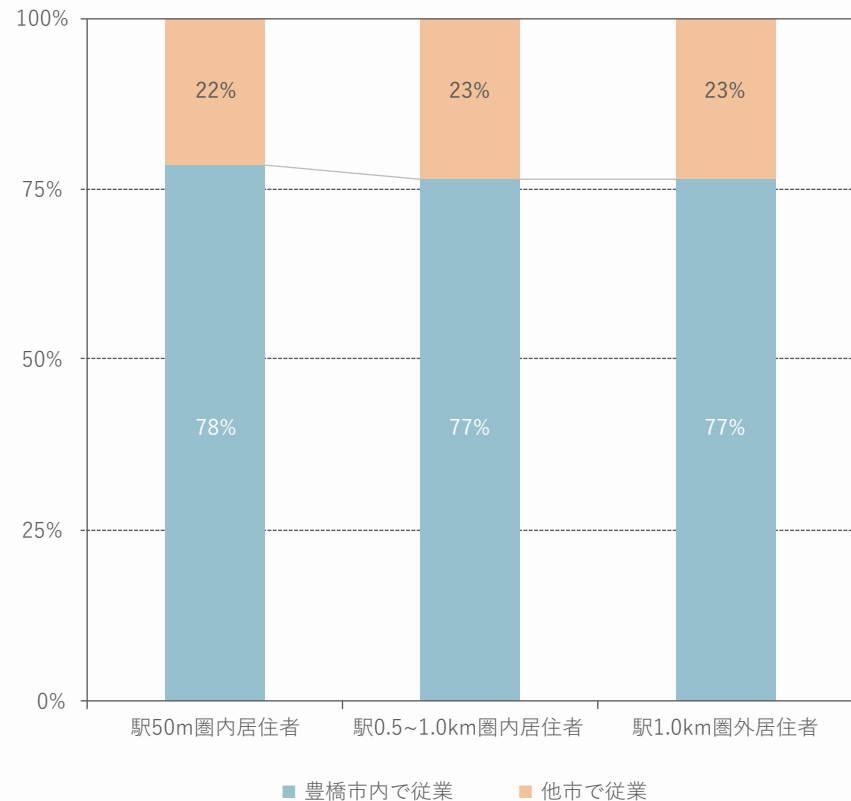
駅周辺の居住者であっても他市で従業する人の割合は全市的な傾向とほとんど変わらず、まちなかに暮らす人の約8割が市内で働いています。

■全産業の従業者数分布（2016年）



出典：2016年経済センサス活動調査

■駅周辺居住者及び全市の市内外従業地割合（2016年）

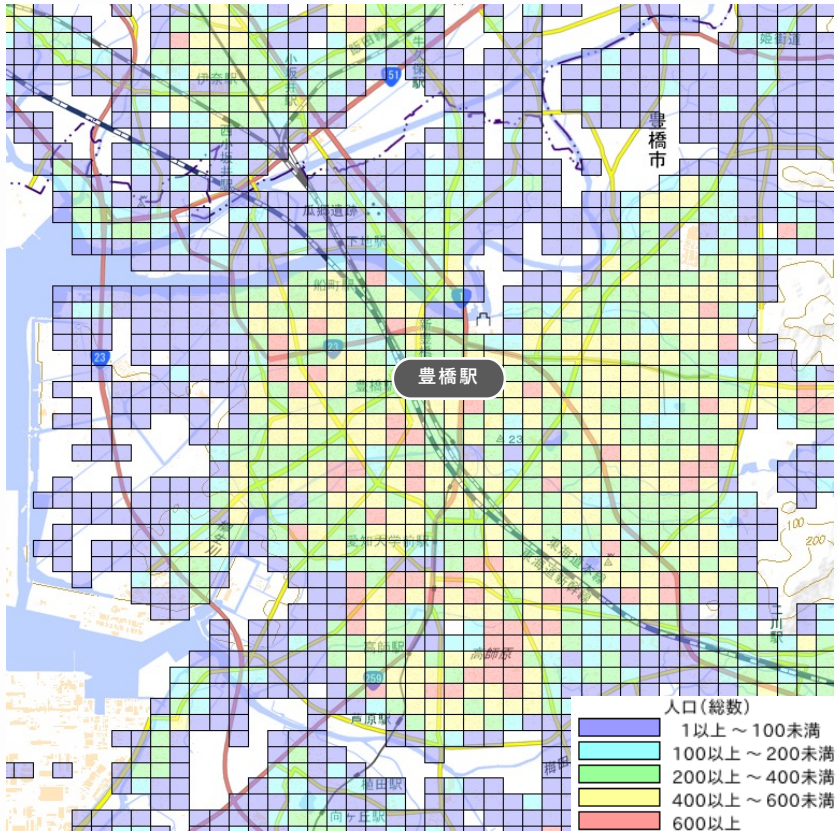


出典：国勢調査

都心居住も進みつつある

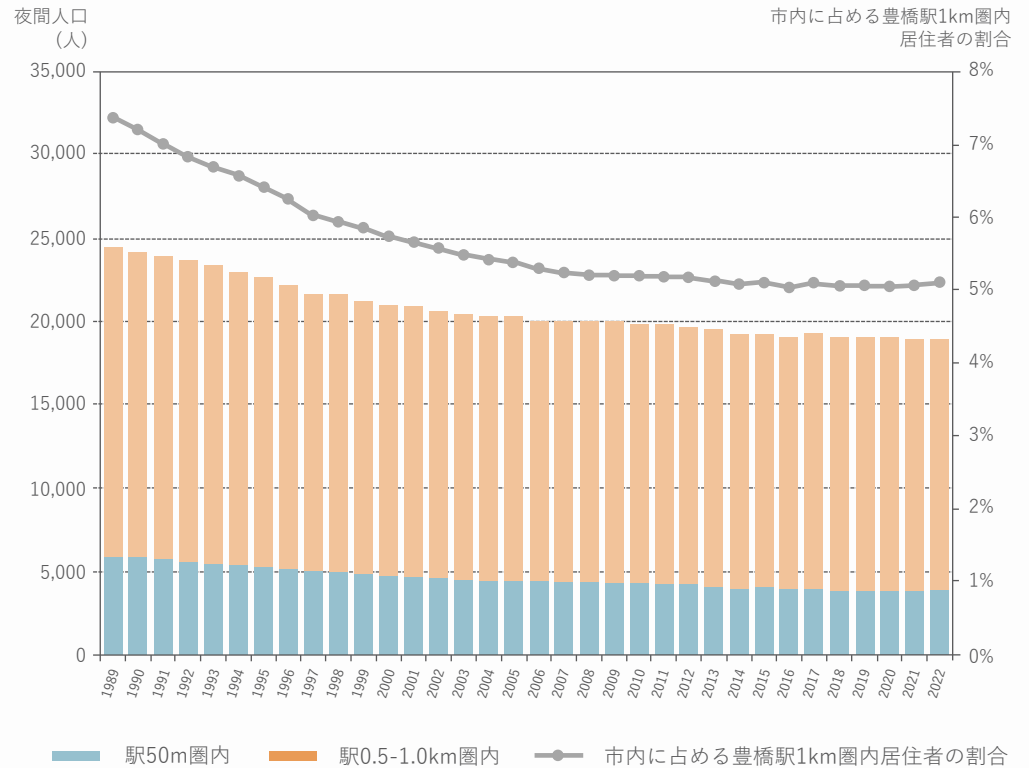
居住人口については、豊橋駅1km圏内の人口は30年前から減少し続けており、市全体の人口に対する割合も5%程度へと減少しています。ただし、直近では駅周辺地区で多くのマンション開発が進み、2020年を機に居住人口が増え始めています。今後もマンション開発の予定があることから、ますます都心居住が増加する可能性があります。

■ 居住人口の分布（2020年）



出典：2020年国勢調査

■ まちなか人口の推移



出典：豊橋市住民基本台帳

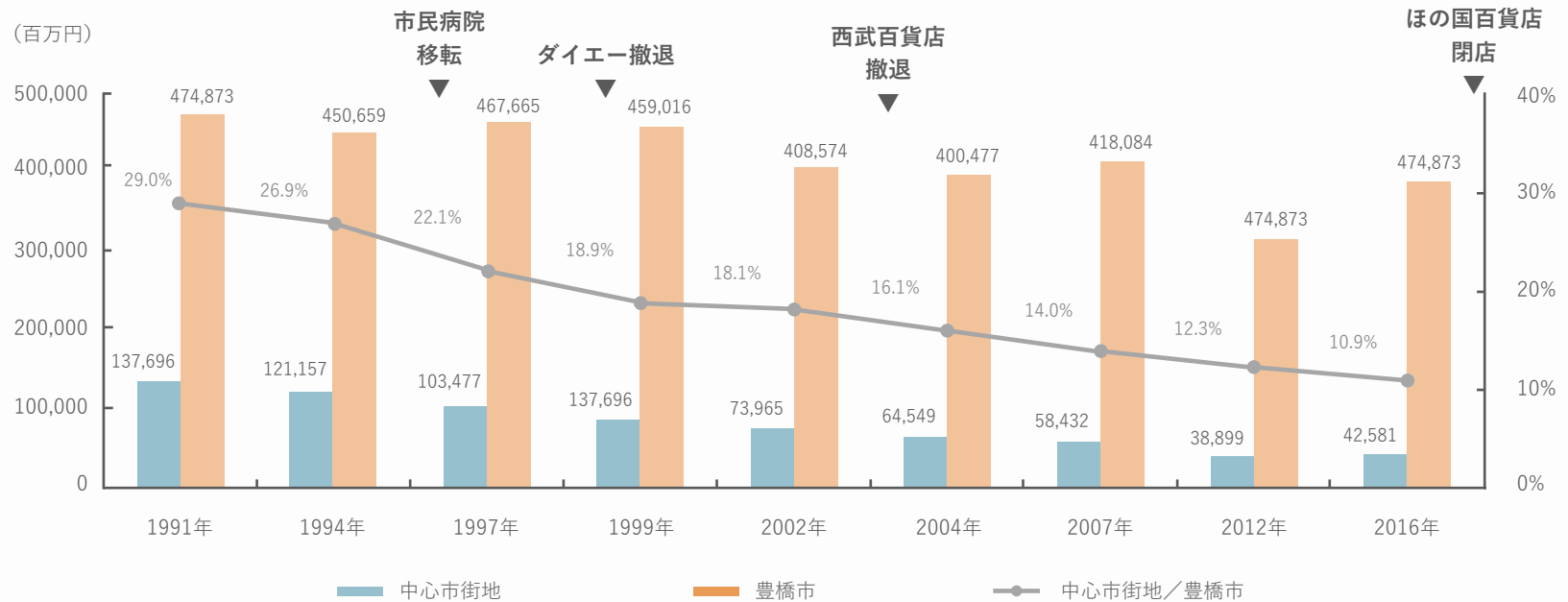
商業機能は大幅に低下している

中心市街地における小売業の年間商品販売額も小売業者数も30年前と比較して、約1/3に減少しています。

それに伴って、豊橋市全体に対して中心市街地が占める販売額も、約30%から10%近くまでに減少し、中心市街地の魅力や役割を商業機能だけで定義していくことは困難になりつつあります。

空き店舗は減少傾向にありますが、建物の取り壊し、飲食業を含む他業種への転換も多く含まれています。

■小売業年間商品販売額の推移



※中心市街地の数値は松葉・松山・新川校区の合計（資料・商業統計調査、2016（平成28）年経済センサス活動調査）

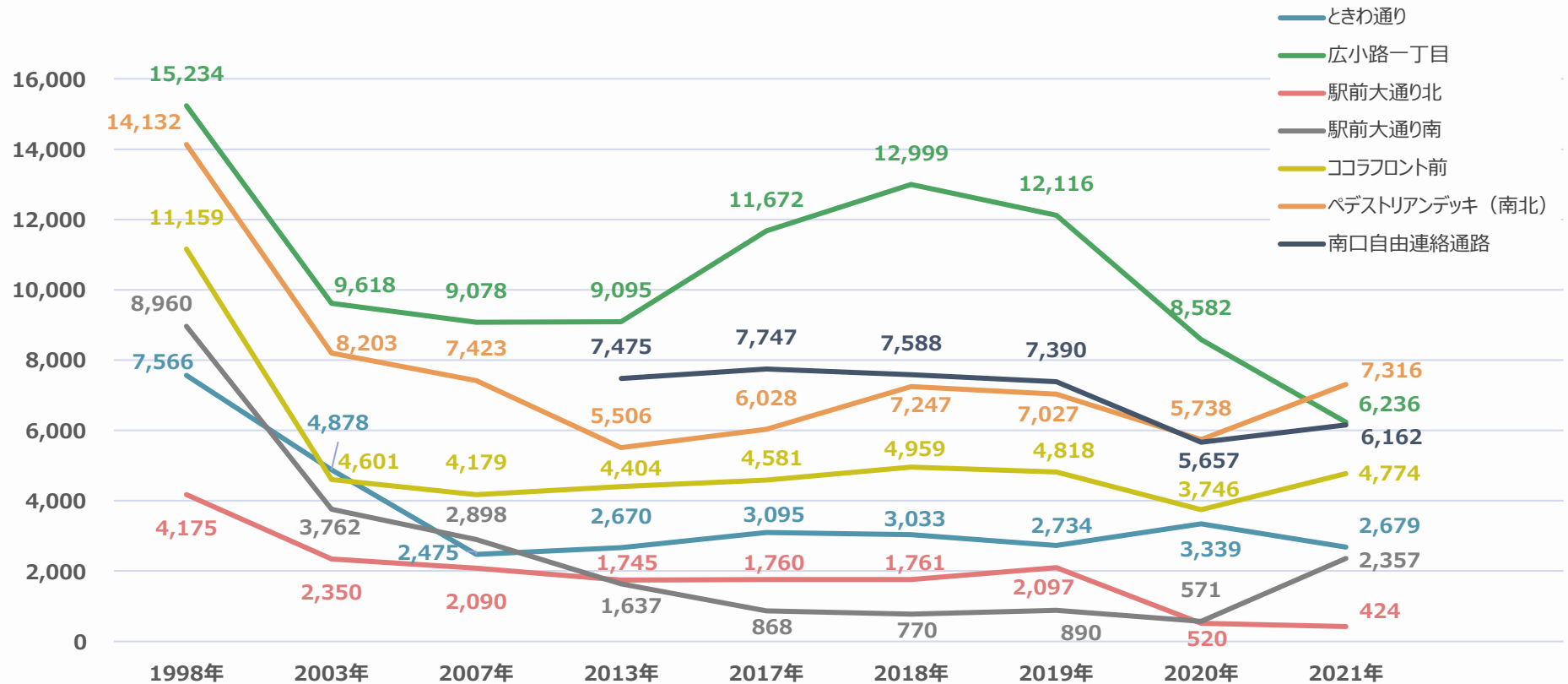
出典：豊橋市中心市街地活性化基本計画2021-2025

歩行者通行量数も減少傾向に

中心市街地の主要地点における歩行者数も25年前と比較すると多くの地点で減少しています。

広小路通りやときわ通りなど多くの路線では、2013年ごろから歩行者通行量が回復・維持傾向にあったのに対し、駅前大通りの南側は減少傾向が止まらず、2019年には1998年の1/10にまで減少していましたが、まちなか広場・図書館が開業した2021年以降は増加傾向に転じています。

■豊橋駅周辺における休日歩行者通行量[人](11時-17時)

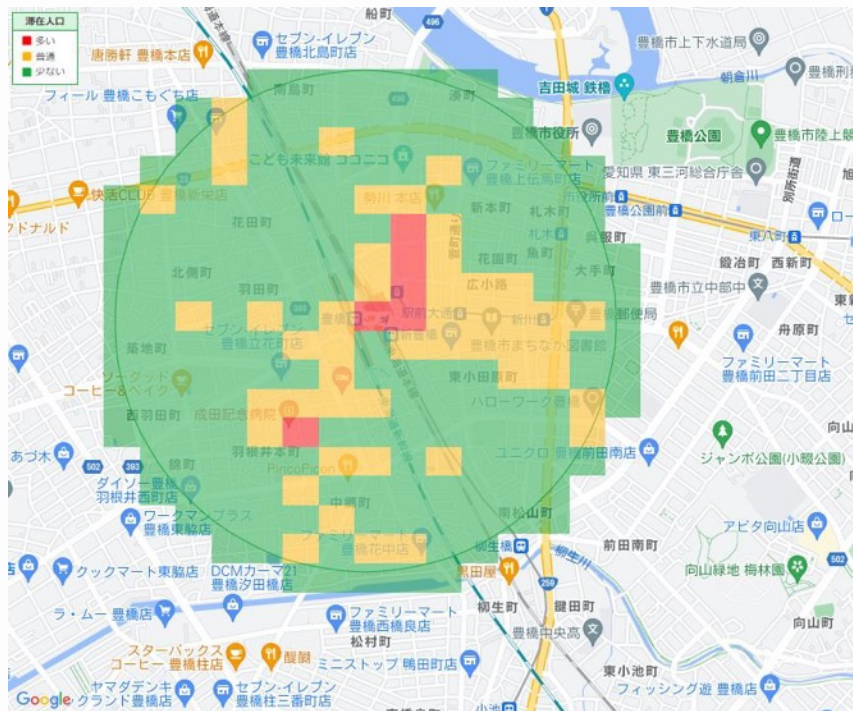


出典：豊橋市中心市街地活性化基本計画2021-2025及び豊橋市調査結果

休日の滞在人口が平日に比べて少ない

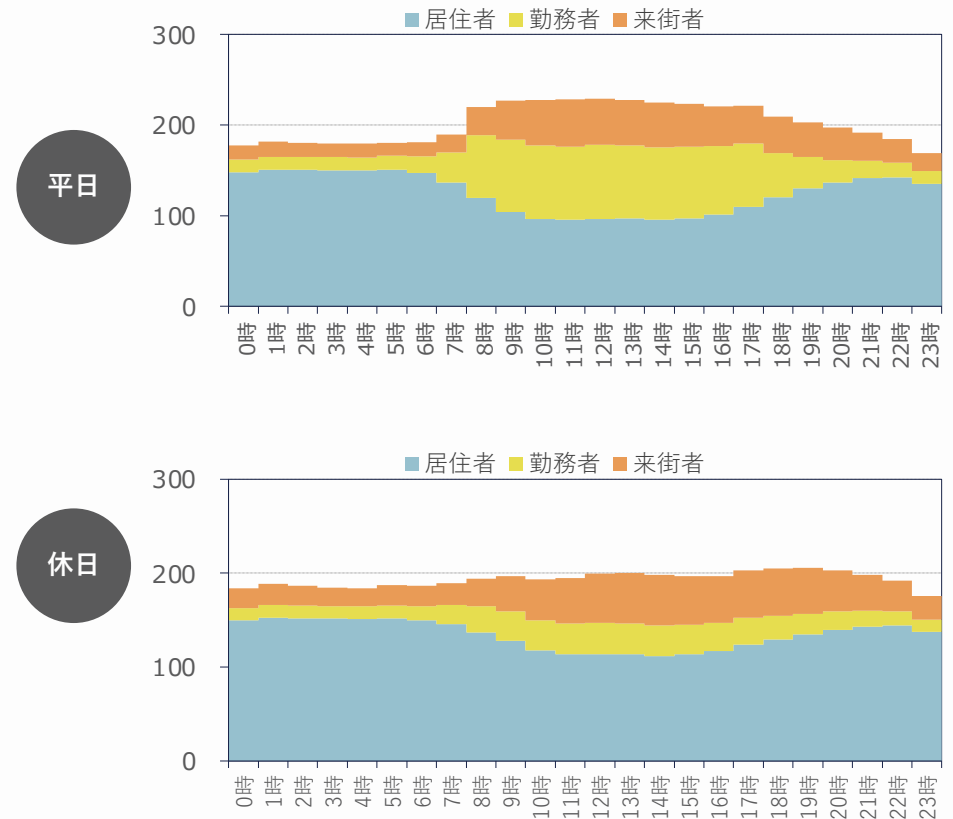
まちなかの滞在人口の分布をみると、駅から広小路通り、ときわ通りにかけて人数が多く、水上ビルや駅前大通りにも滞在人口が多く広がっています。時間帯別の滞在人口を見ると、平日は働く人が多く、夜間の1.3倍程度の滞在人口が確認できますが、休日は働く人の来街が減少し、かつ来街者が平日とあまり変わらないため、滞在人口が夜間の1.1倍程度にとどまっています。

■ 1時間以上の滞在人口（2021年・平休日含む）



出典：KDDI Location Analyzer

■ 時間帯別の滞在人口の変化（2021年平均）

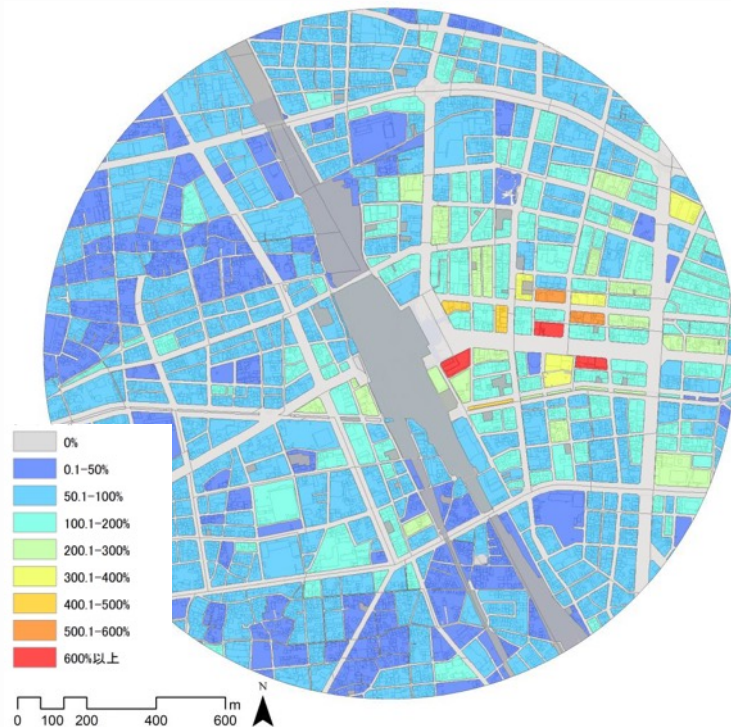


容積率にはまだ余裕がある

まちなかの容積率は、駅前大通りや広小路通り沿線で600%、それ以外の場所では概ね400~500%と定められていますが、現状の容積率は約200%と余裕を残しています。

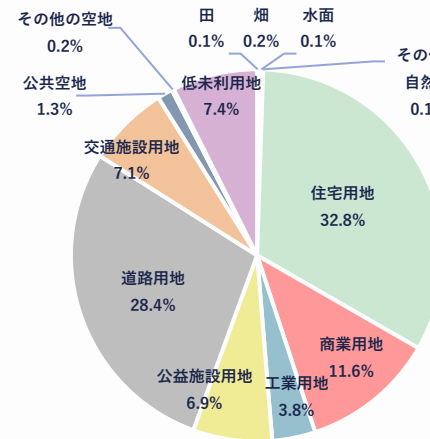
老朽化した低層建物の割合が多いことから、建て替えに伴う土地の高度利用化と都市機能の更新が期待されます。

■現状の容積率の分布

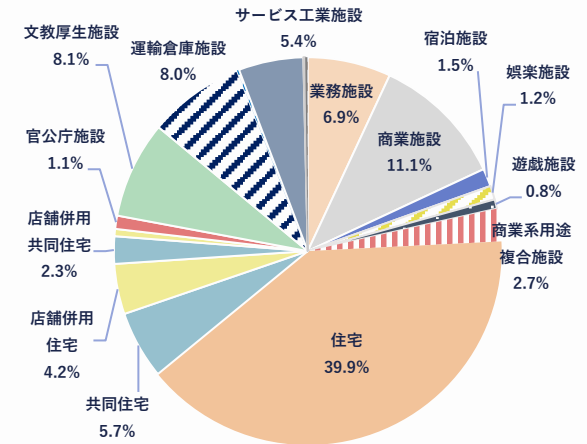


※街区単位で集計した容積率

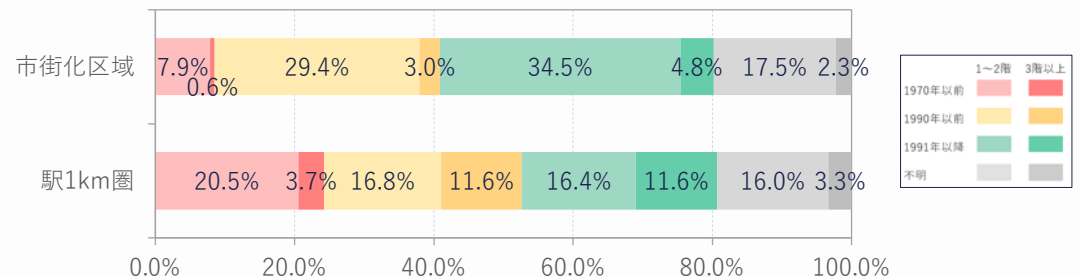
■土地利用現況（駅1km圏内）



■建物用途現況（駅1km圏内）



■築年数・建物高さ



出典：都市計画基礎調査(2017・2018)

歩行空間の確保や回遊性に課題

豊橋駅500m圏内に占める道路・駐車场面積の割合は、約31%と自動車のための空間が1/3を占めています。

歩道は比較的確保されていますが、公開空地を含めた民間敷地における歩行・滞留空間が少ない傾向にあります。

歩行空間のネットワーク性を見ると、駅近くでは広小路通りや駅前大通南側などの主要な道路の歩道でも通りがかりやすさが低い区間があり、駅と市街地を結ぶ歩行者ネットワークの向上が望まれます。

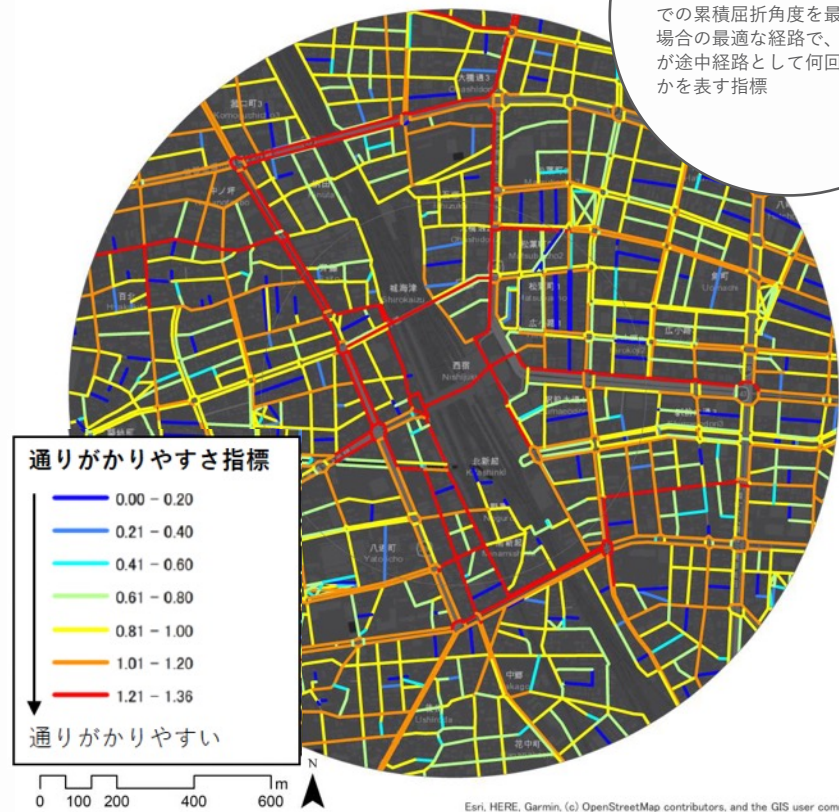
■ 近隣主要都市・駅周辺地区における道路及び空地面積比率 (エリア全体の面積に対する比率)

都市・駅	①車道	②駐車場	③歩道	④空地
名古屋市 栄駅	19.3%	4.6%	11.4%	6.3%
豊橋市 豊橋駅	17.1%	14.3%	5.4%	1.5%
岡崎市 東岡崎駅	12.6%	11.9%	3.5%	4.2%
豊田市 豊田市駅	17.5%	17.7%	5.2%	3.7%
一宮市 尾張一宮駅	19.0%	17.3%	4.7%	2.2%
岐阜市 JR岐阜駅	20.2%	13.3%	4.9%	3.2%
四日市市 近鉄四日市駅	19.0%	16.6%	4.7%	3.4%

出典：近藤美沙希・森田絃圭・三浦大貴・高野剛志
持続可能な都市形成における鉄道駅周辺地区の空間配分に関する基礎的分析-
中京圏主要都市間比較を通じて-,第66回土木計画学研究・講演集

■ 500m圏内の通りがかりやすさ指標

通りがかりやすさ指標は、対象地域内で、総当たりで起終点を結び、距離を考慮せずに、移動での累積屈折角度を最小とした場合の最適な経路で、その街路が途中経路として何回使われるかを表す指標



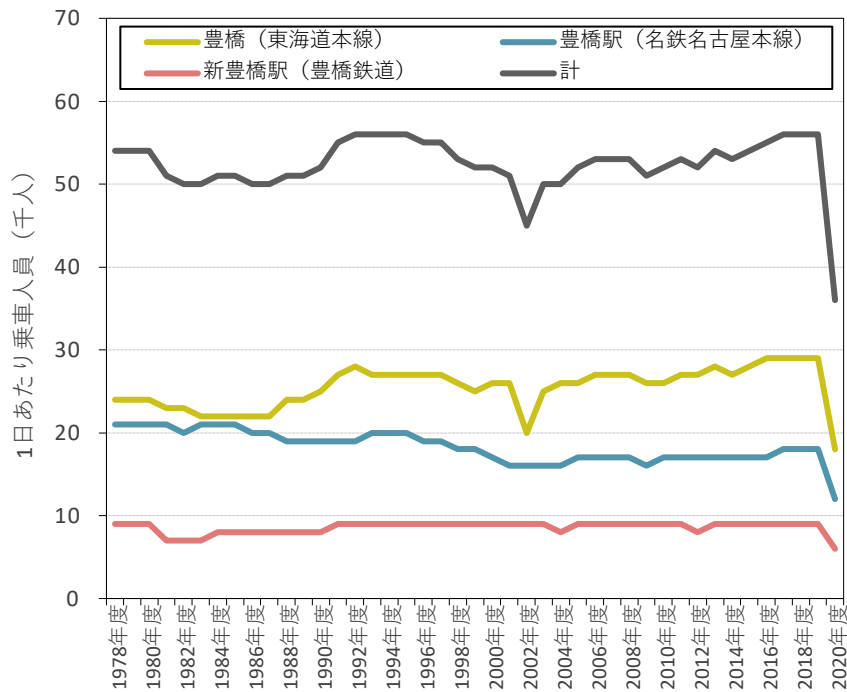
公共交通の利用にも変化

豊橋駅の乗降客数については、路線によって増加・減少傾向は分かれているものの、全体的に横ばいで推移しています。

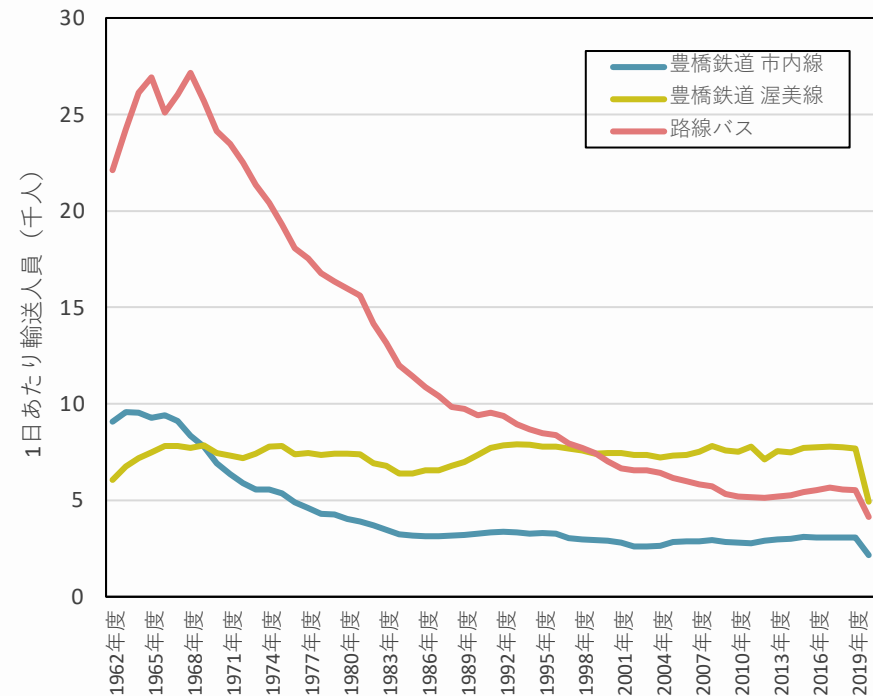
市内線や路線バスについては、1960年代からは大幅に減少しているものの、この10年間では回復傾向となっています。また、渥美線については1960年代からは増加傾向にあります。

新型コロナウイルスの影響により2020年度は大幅に減少しており、今後の回復見込みを注視する必要があります。

■ 豊橋駅の乗降客数の推移



■ 市内公共交通路線の利用状況



出典：愛知県統計年鑑・豊橋市統計書

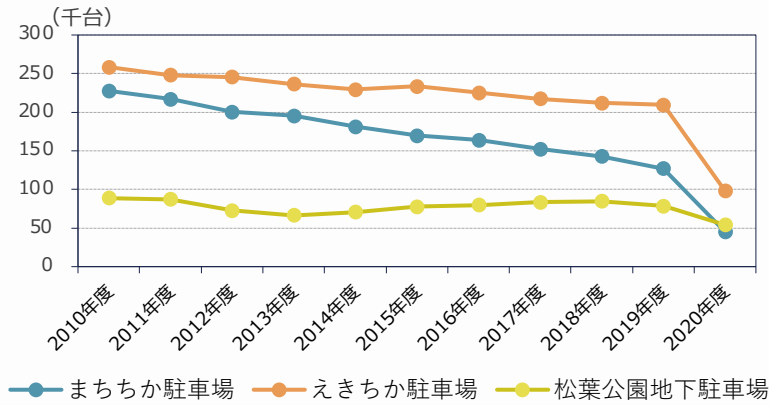
市営駐車場の利用は減少傾向

豊橋えきちか駐車場、豊橋まちちか駐車場の利用台数は、大型店などの撤退や民間コインパーキングの増加等の影響もあり近年減少傾向にあります。

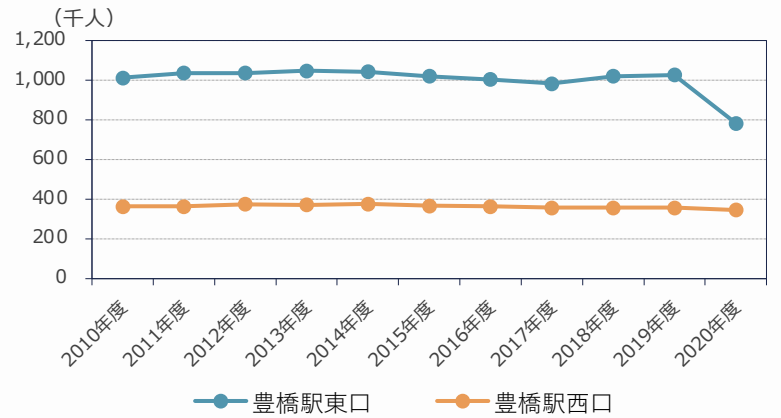
豊橋駅東口駐車場の駐輪台数はコロナ禍で約2割減となっていますが、豊橋駅西口駐輪場では新たに白河エリアなどが追加されたため、駐輪台数は横ばいで推移しています。

■市営駐車場・駐輪場の利用台数

市営
駐車場



市営
駐輪場



出典：豊橋市統計書・豊橋橋市公共駐車場経営戦略

■まちなかの駐車場・駐輪場

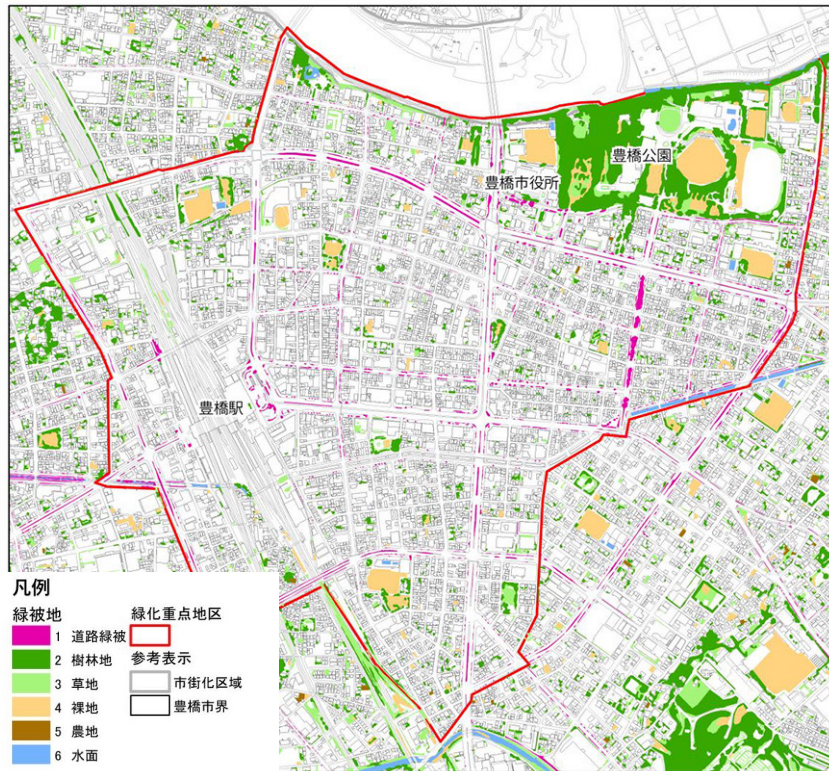


出典：豊橋市中心市街地活性化基本計画2021-2025より加工

緑の量や質が不十分

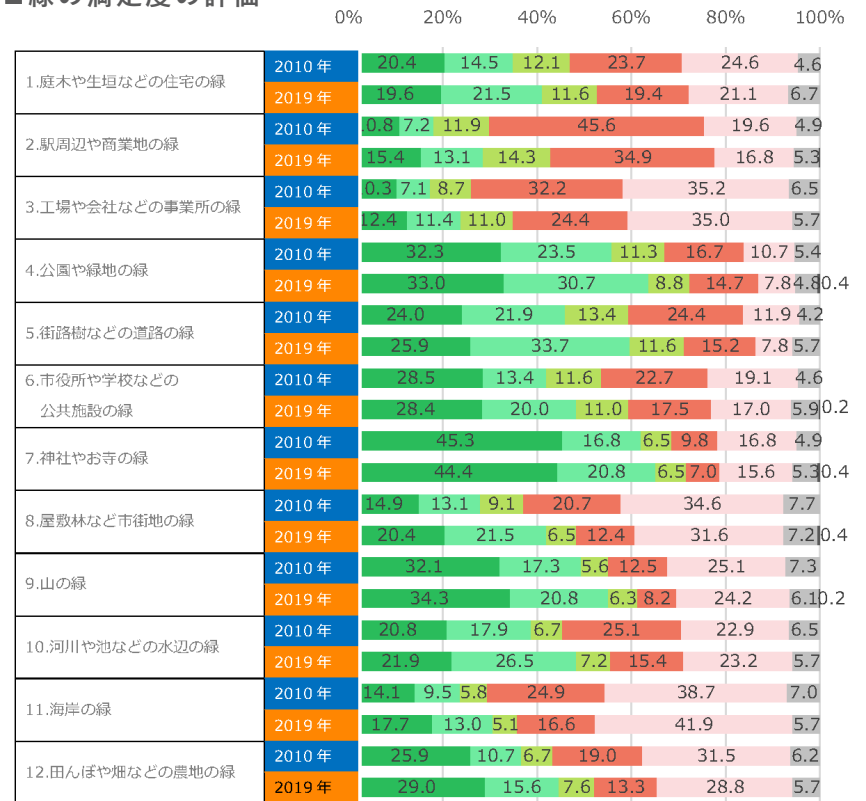
まちなかの緑被地は他の地区と比べて低く、また緑視率（各地点から視界に入る緑の量）も、緑化重点地区の外と比べると低い傾向にあります。緑の満足度については、駅周辺や商業地の緑については3割以上の方が「量も質も不十分」と回答し最多となっています。街路樹などの道路の緑については、「量は十分、質は不十分」と回答された方が3割以上に上ります。

■緑化重点地区と緑被地の分布



出典：とよはし緑の基本計画

■緑の満足度の評価



■ 量も質も十分
 ■ 量は十分質は不十分
 ■ 量は不十分質は十分
 ■ 量も質も不十分
 ■ わからない
 ■ 無回答
 ■ 無効

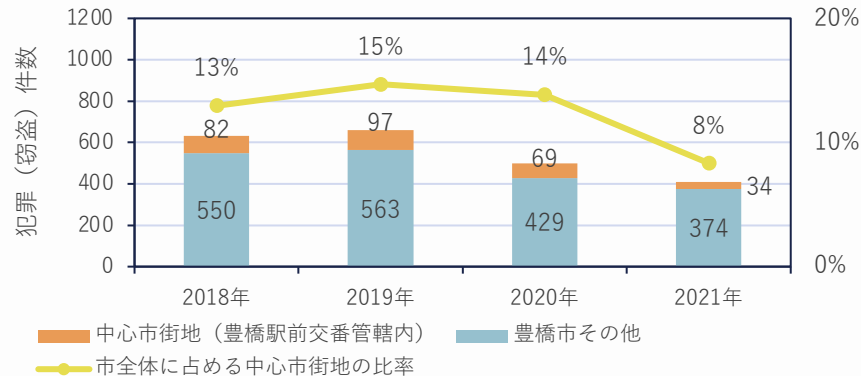
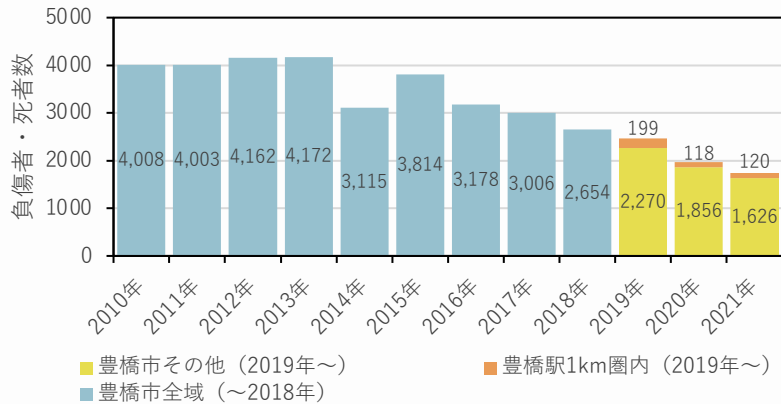
2010年 N=2337
 2019年 N=525

更なる防犯・防災性向上に期待

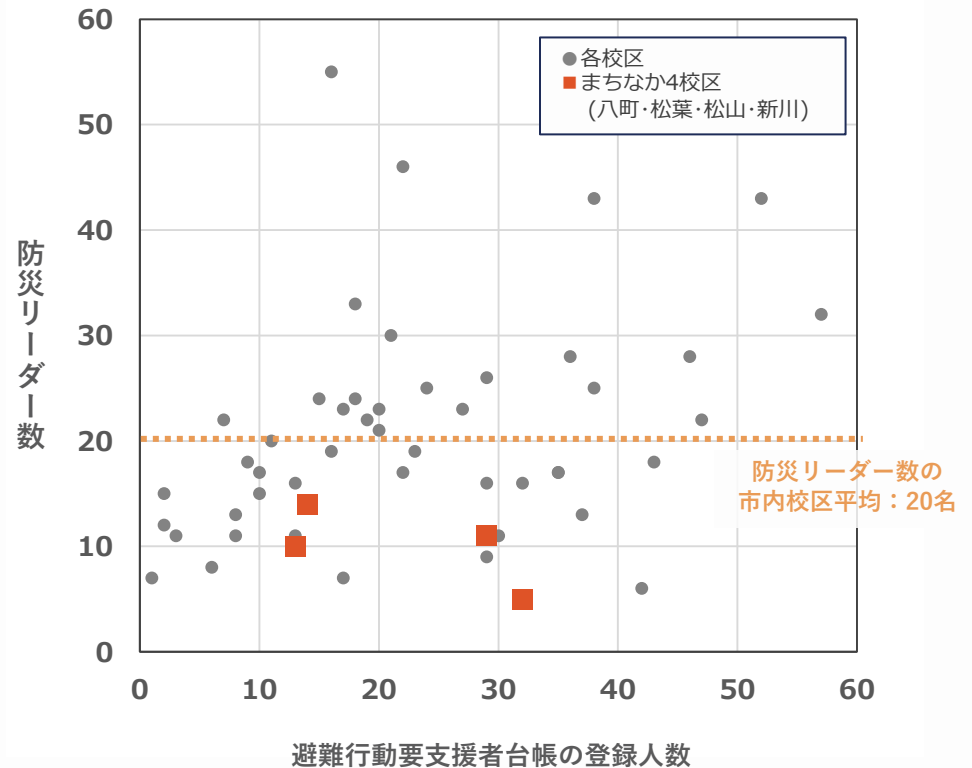
交通事故、犯罪ともに市全域では減少傾向にあり、まちなかだけを見ても減少傾向にあります。

災害対応について、地域によって防災リーダー数に差があったり、災害時に地域の支援が必要になる方が参加する訓練等を十分に行えていないことから、さらなる自助・共助の取り組みの活性化が必要です。

■ 交通事故及び犯罪件数の推移



■ 校区ごとの避難行動要支援者台帳の登録人数と防災リーダーの数(2021年度末)



出典：豊橋市統計書、警察庁ウェブサイトより加工
(https://www.npa.go.jp/publications/statistics/koutsuu/opendata/index_opendata.html)

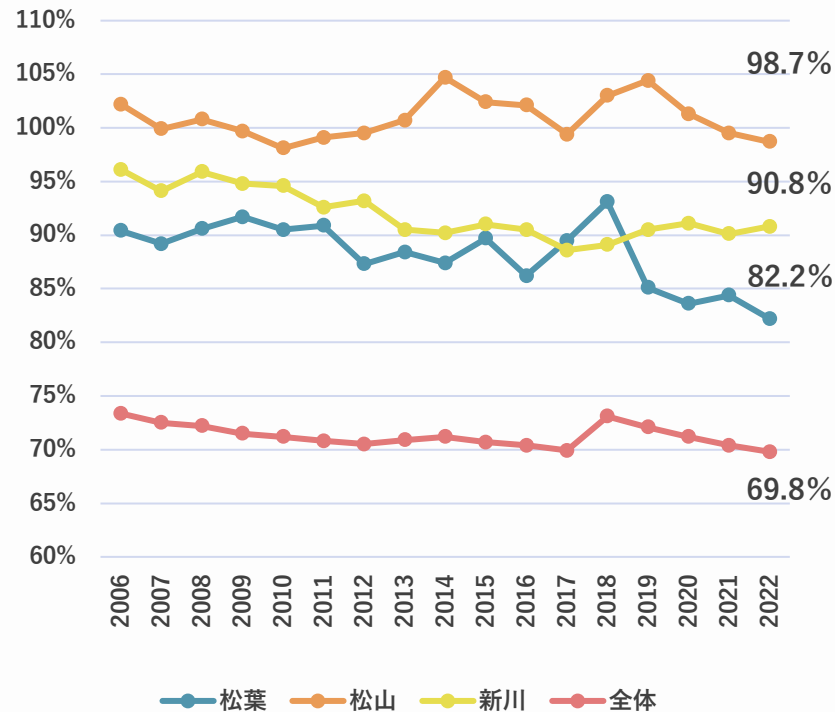
出典：愛知県警察犯罪オープンデータサイトより加工
(<https://www.pref.aichi.jp/police/anzen/toukei/opendata/seian-s/crimeopendata.html#>)

自治会加入率は高い

駅周辺地区の自治会の加入率は減少傾向にはあるものの、加入会員数は全体として増加傾向にあり、市全体と比較しても地域コミュニティの結びつきは維持されています。

■ 校区自治会加入率

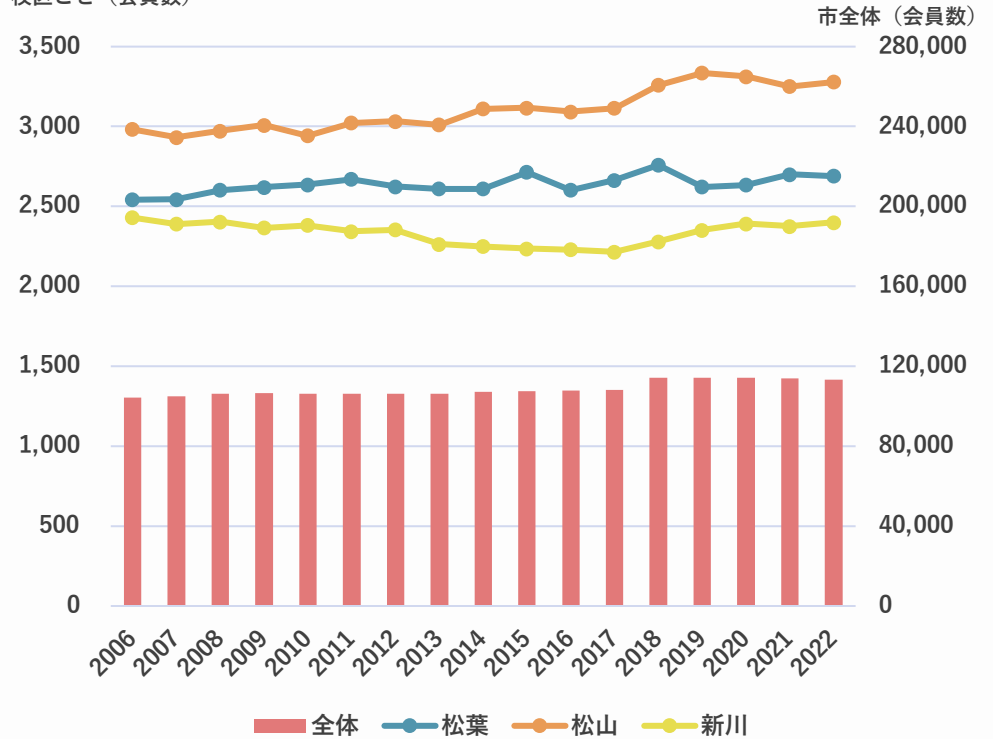
< 校区自治会加入率 >



※住民以外の加入（企業等）により100%を超えることがある

< 会員数 >

校区ごと（会員数）



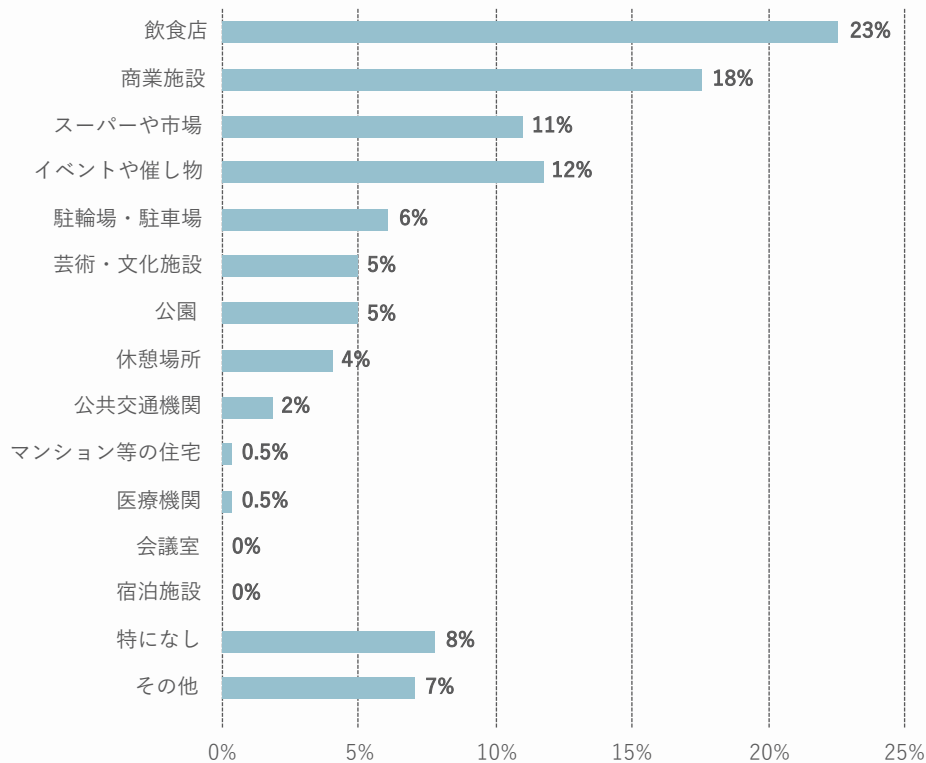
多くの方が住み続けることを希望

まちなかに充実してほしいことは飲食店や商業施設、スーパーなどの希望が多く、イベントなどの催し物を期待する声も比較的多い状況です。

まちなかに住む人の9割がこれからも住み続けることを希望しており、現在まちなかに住まれていない方の4割が、まちなかに住んでみたいと回答しています。

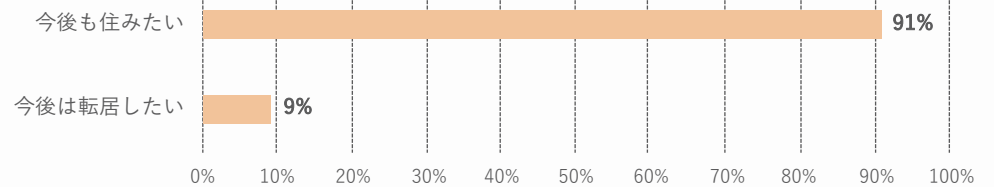
まちなかへの訪問手段は自動車・自動二輪車、公共交通機関が多く、合わせて約8割がどちらかでアクセスしています。

■まちなかに充実してほしいこと

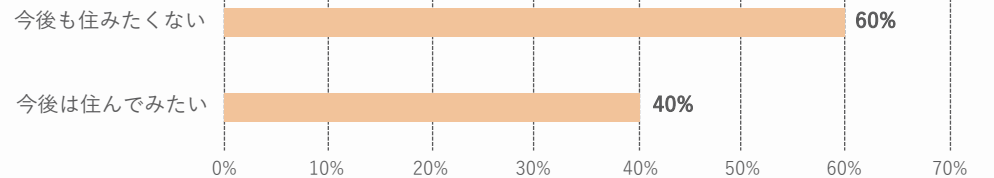


■まちなかでの居住意向／今後の居住意向

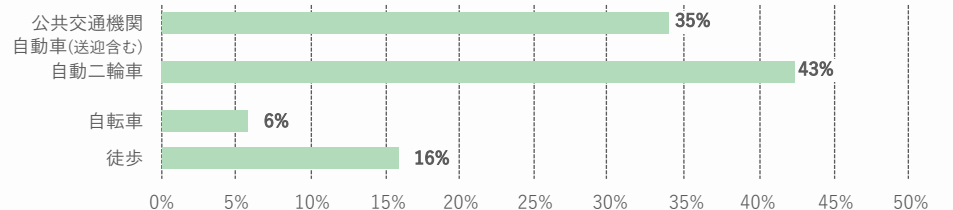
【中心市街地在住者】



【中心市街地外在住者】



■まちなかへの訪問手段



出典：「中心市街地来街者アンケート」調査（N=243）2019年5月4日～11月10日（期間内のイベント開催時実施）

まちづくりは活発・積極的

まちなかでは様々なイベントや取り組みが展開しており、いずれも継続的に行われています。

実施主体も行政や商店街だけでなく、自治会や活動団体など幅広く、実施されるイベントもアート・文化（sebone、スロータウン映画祭など）、多様なマーケットなど幅広く、まちなかの魅力充実が積極的に行われています。

▼豊橋まちなか歩行者天国（広小路通他）



出典：豊橋市

▼豊橋まつり（駅前大通他）



出典：豊橋市

▼とよはしまちなかスロータウン映画祭（プラット他）



出典：とよはしまちなかスロータウン映画祭HP

▼雨の日商店街（水上ビル）



出典：駅デザHP

▼アートイベントsebone（水上ビル他）



出典：seboneHP

▼イルミネーション（ペストリアンデッキ他）



出典：豊橋まちなか情報ステーションHP

活用・回遊・開発による機能集積の推進

豊橋市の各種計画においては、まちなかの長期の目標として、居住と雇用の創出の場及び都市機能の集積を掲げ、再開発やストック活用で達成することを目指しています。中心市街地活性化の視点では、公共空間の活用や回遊性の向上から人の流れと投資を生むことに期待しています。まちづくりビジョンでは、暮らしの視点を含み、コミュニティやカルチャーの自律的な育みに重点を置いています。

■豊橋市の各種計画におけるまちなかの位置づけ

第6次豊橋市総合計画

- ・ 既存空間の利活用と再開発、リノベーションによる魅力あるまちなかの整備
- ・ 魅力ある商業・サービス業集積、来街・滞在促進と回遊性の向上

豊橋市都市計画 マスタープラン 2021-2030

- ・ 高度で多様な都市サービスを楽しむことができる広域的な都市機能の集積
- ・ 多様な世代やライフスタイルに応じた居住と雇用の場を確保

豊橋市中心市街地活性化 基本計画2021-2025

- ・ にぎわいの交流空間を形成するまちづくりの推進
- ・ 回遊したくなる魅力づくりの推進／快適に暮らせるまちづくりの推進

豊橋駅周辺地区市街地 総合再生基本計画

- ・ 「民間再開発」による利便性・機能性向上（都心部）と「ストック活用」による賑わいの波及・エリアの価値向上（周辺部）

居心地が良く歩きたくなる まちなか形成の基本計画骨子

- ・ 現在のまちなかにある魅力をさらに伸ばしたり、新たな魅力を作るとともに、まちなかの魅力をつなぐことで人の流れや投資を波及展開

豊橋駅前大通地区 まちづくりビジョン

- ・ まちを舞台に人の魅力が生き生きとするまち
- ・ 豊かさを実感するゆっくり快適に過ごせるまち
- ・ まちなかのコミュニティ・カルチャーを育む自律的なまちづくり

まちづくりに求められる社会ニーズの変化

社会潮流が大きく変化している時期に来ており、空間的な考え方の大きな転換点であるとともに、産業、社会、環境それぞれの面で幅広い視野でまちづくりを考えていくことが求められつつあります。加えて、全国的な傾向と同様に人口減少や少子高齢化にも直面しており、これらへの対応も必要不可欠となります。

1 ウォーカブルなまちづくりの全国的展開

- 国土交通省が掲げるウォーカブル推進都市は355(2022年10月末時点)団体にも上り、日本各地で多様な都市の魅力向上に向けた取り組みが始まっています。
- 豊橋市もこの枠組みに賛同しており、積極的な対応が求められます。



出典：国土交通省

2 持続性の高いまちづくり (SDGs)

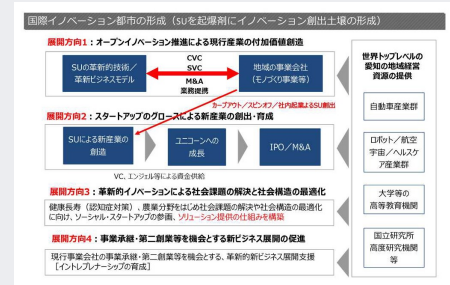
- 豊橋市は2019年度に内閣府のSDGs未来都市に選定されるとともに、2021年11月には「2050年ゼロカーボンシティ」を宣言しています。まちづくりに関してもカーボンニュートラル達成に向けた取り組みが求められます。



出典：国際連合広報センター

3 スタートアップによるイノベーションの推進

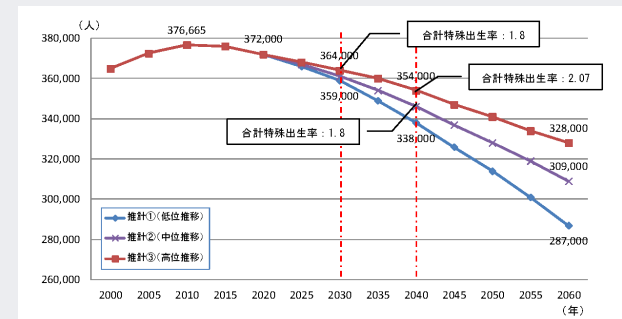
- 愛知県は迫りくる産業構造の大幅な転換に対応するため、スタートアップ推進戦略を掲げています。
- 豊橋市としてもこれからの地域経済の発展に向けて県内の様々な地域とも連携した対応が求められます。



出典：愛知県

4 人口減少・少子高齢化への直面

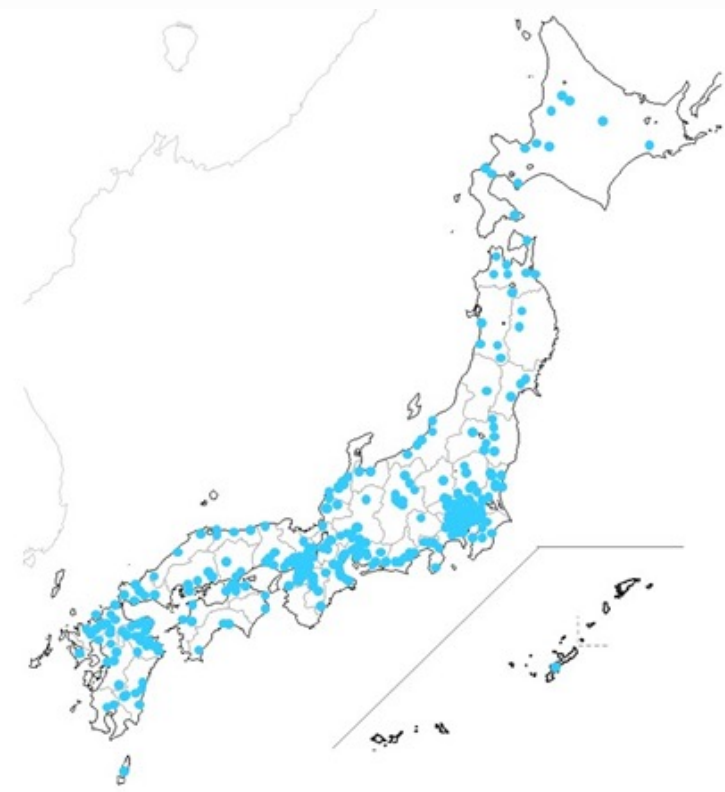
- 豊橋市においても、全国的な傾向と同様に少子高齢化と人口減少が予測されており、その対応が必要不可欠です。
- 全市的な少子高齢化に合わせたまちづくり、そして人口流出の抑制に向けた対応が必要不可欠です。



1

ウォーカブルなまちづくり の全国的な展開

全国のウォーカブル推進都市（370都市）



出典：国土交通省ポータルサイト【2024年2月末現在】

国土交通省は、街路空間を車中心から”人中心”の空間へと再構築することなど、ウォーカブルなまちへの転換を通じて、都市に活力を生み出し、持続可能かつ高い国際競争力の実現する「ウォーカブル推進プログラム」を展開しています。

その趣旨に賛同する「ウォーカブル推進都市」は全国で370都市に上っており、近隣では岡崎市や豊田市などが積極的な取り組みにより、中心市街地の再生にとどまらない都市の魅力向上に向けた展開を行っています。

近隣都市の取り組み事例

岡崎市QURUWA戦略

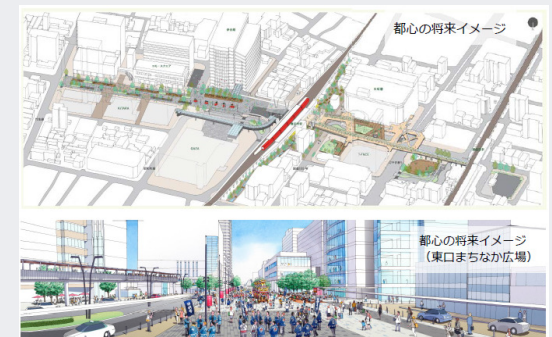
- 岡崎市では、東岡崎駅や中心市街地を含む主要回遊動線を設定
- その周辺地域で、公園・街路整備事業やPFI、リノベーションまちづくりなど様々な公民連携プロジェクトを展開し、エリアの価値向上に取り組む。



出典：岡崎市QURUWA戦略

豊田市都心環境計画

- 豊田市では、豊田市駅周辺地区を対象に都心環境計画を設定し、誰もが来街したくなる魅力的な拠点を目標して「活用」「再整備」を両輪で推進。
- 公園整備や暫定地の公民連携事業など、将来のすがたの実現に向けてできることから事業を推進中。



出典：豊田市都心地区空間デザイン基本計画

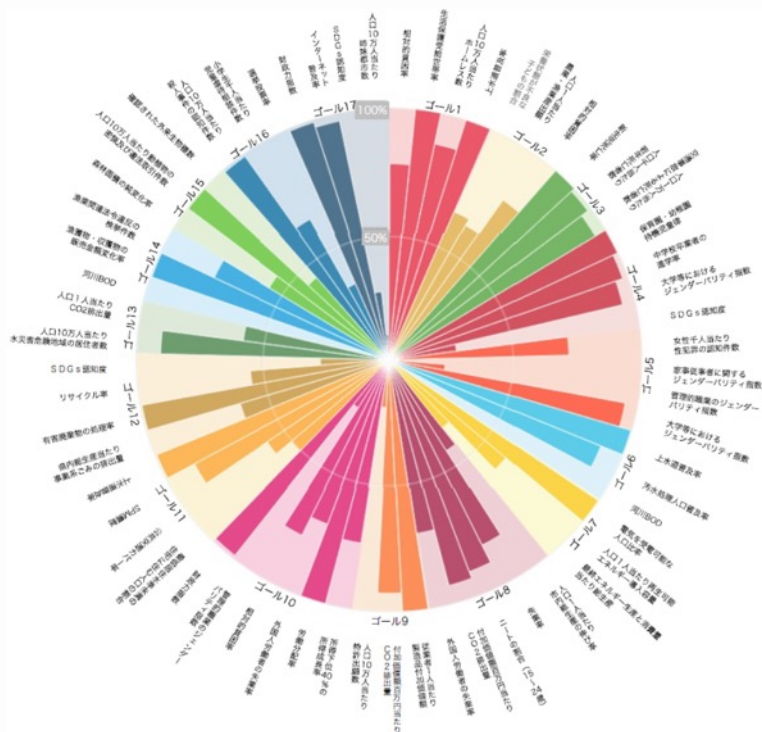
2

持続性の高い まちづくり (SDGs)

SDGsの視点から豊橋市を見ると、ジェンダー (G5)、海洋生物多様性 (G14) やパートナーシップ (G17) に関する達成度が低く、また、全国平均と比較すると、水資源(G6)やイノベーション(G9)、海洋生物多様性(G14) には積極的な対応が必要です。

まちなかで対応が可能な取り組みとしては、雇用(G8)、イノベーション(G9)や持続可能な都市(G11) などがあり、これらを中心としてSDGsの視点からも対応が求められます。

豊橋市におけるSDGs達成度 (2020年)



ゴールごとの達成度



全国平均との差



出典：SDGs達成度評価結果 (中部圏SDGs広域プラットフォーム)

3

スタートアップによる イノベーションの推進

愛知県では、産業の競争力を維持し、日本、世界をリードしていくため、スタートアップを起爆剤としてイノベーション誘発の土壌となる「スタートアップ・エコシステム」の形成を強力に推進しています。

東三河地域においても豊橋市の産官学民の様々な主体が集まり、東三河スタートアップ推進協議会を設立し多様なプログラムを展開しており、愛知県とも連携しながら、今後の産業構造変革に対応した地域産業の発展を目指しています。

多様な人々が偶然的に交流するまちなかは、地域のイノベーション推進にあたっての重要なエリアといえます。

東三河スタートアップ推進協議会
 設立日 2021年10月7日
 会長 神野吾郎
 事務局 (株)サイエンス・クリエイト
 電話 0532-44-1111

<会員>
 ・東三河広域経済連合会
 ・イノチオホールディングス(株)
 ・(株)サイエンス・クリエイト
 ・中部ガス不動産(株)
 ・武蔵精密工業(株)
 ・豊橋技術科学大学
 ・東三河広域連合
 ・豊橋市

<スタートアップ支援機関>
 ・Startup Garage
 ・emCAMPUS STUDIO
 ・MUSASHi Innovation Lab CLUE
 ※協議会のもとに部会を設置し、各種取組等は部会が主導的に推進

産業界(会員)
 大学(会員) 今後、必要に応じて金融機関や市町村などを追加
 行政(会員)

支援機関
 ●支援機関の連携によるシナジー創出
 ・互いのリソース等の相互活用・補完
 ・東三河を「面」で支援



STATION Aiとの密接な連携
 県と相互の連携協力に関する覚書を締結 (STATION Aiパートナー拠点)
 ・STATION Aiの各種プログラム活用
 ・東三河地域を実証実験フィールドとして活用 等

※オープンまでの間はプレ・ステーション Aiと連携

出典：東三河スタートアップ推進協議会

4

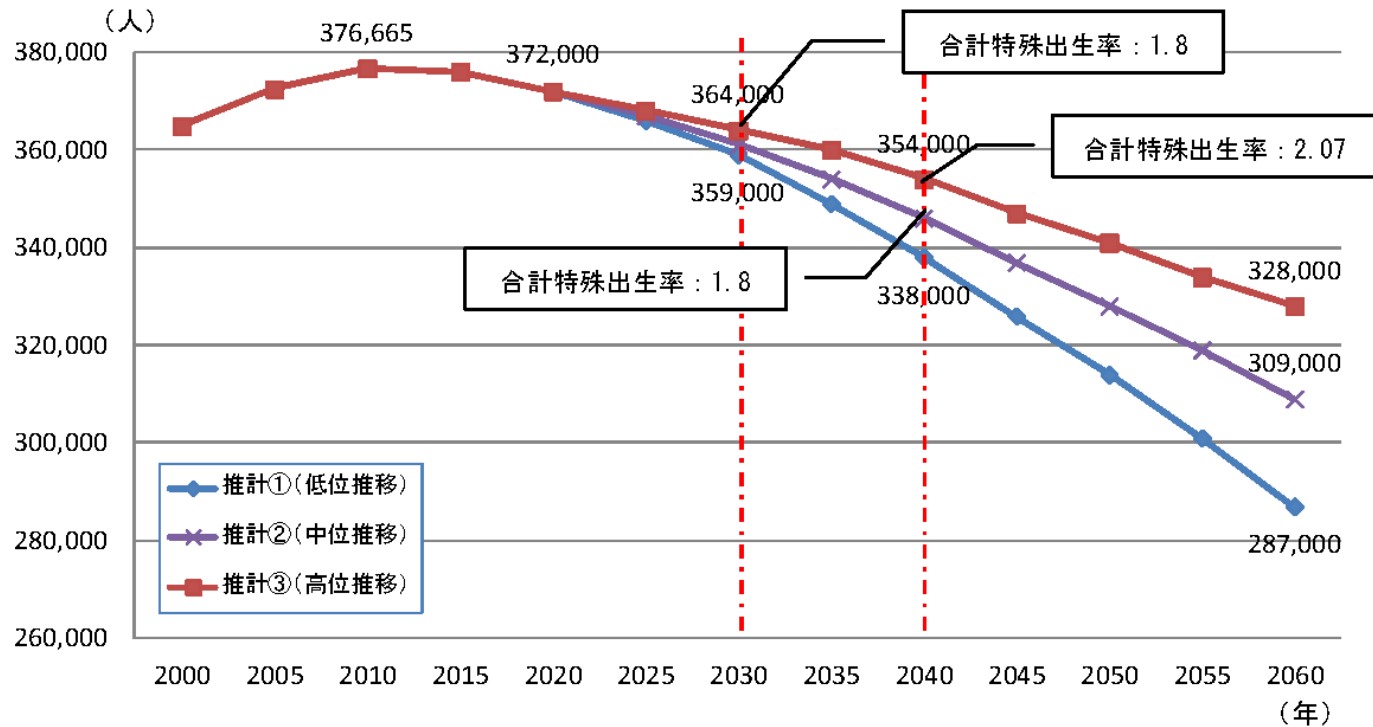
人口減少・ 少子高齢化への直面

豊橋市においても、全国的な傾向と同様に少子高齢化と人口減少が予見されており、その対応が必要不可欠です。

人口は2045年には32万人程度まで減少する恐れがあり、さらに高齢化率も35%近くに達する可能性が推計されていることから、少子高齢化に対応したまちづくりを進めるとともに人口流出抑制のための取り組みも重要となります。

まちなかは市全体より高齢化率は高いものの、ここ5年間は、人口は微増、高齢化率は微減しており、今後の動向が注目されます。

豊橋市の人口推移（～2020年）と将来予測（2025年～）



まちの豊かさを 守り育む

現在のまちなかは、歴史や分野、都市機能の集積、そしてコミュニティの動きなど、様々な魅力にあふれています。
しかし、商業機能の低下や滞在人口の減少などの問題もあり、将来の社会や地域変化にも対応していかなければ、その魅力は徐々に失われてしまう可能性もあります。

市民や関係者の多様な期待に応えるためには、課題や将来変化を克服し、「住みやすさの一步先」を目指す努力が必要です。



まちなかから 地域経済を元気にする

まちなかは、東三河地域の玄関口であり、地域全体の経済を牽引していく役割が求められます。

まちなかの未来づくりが、豊橋市や東三河地域全体の地域経済にも活力を生み出し、それがまちなかの更なる活力へとつながるような循環が期待されます。

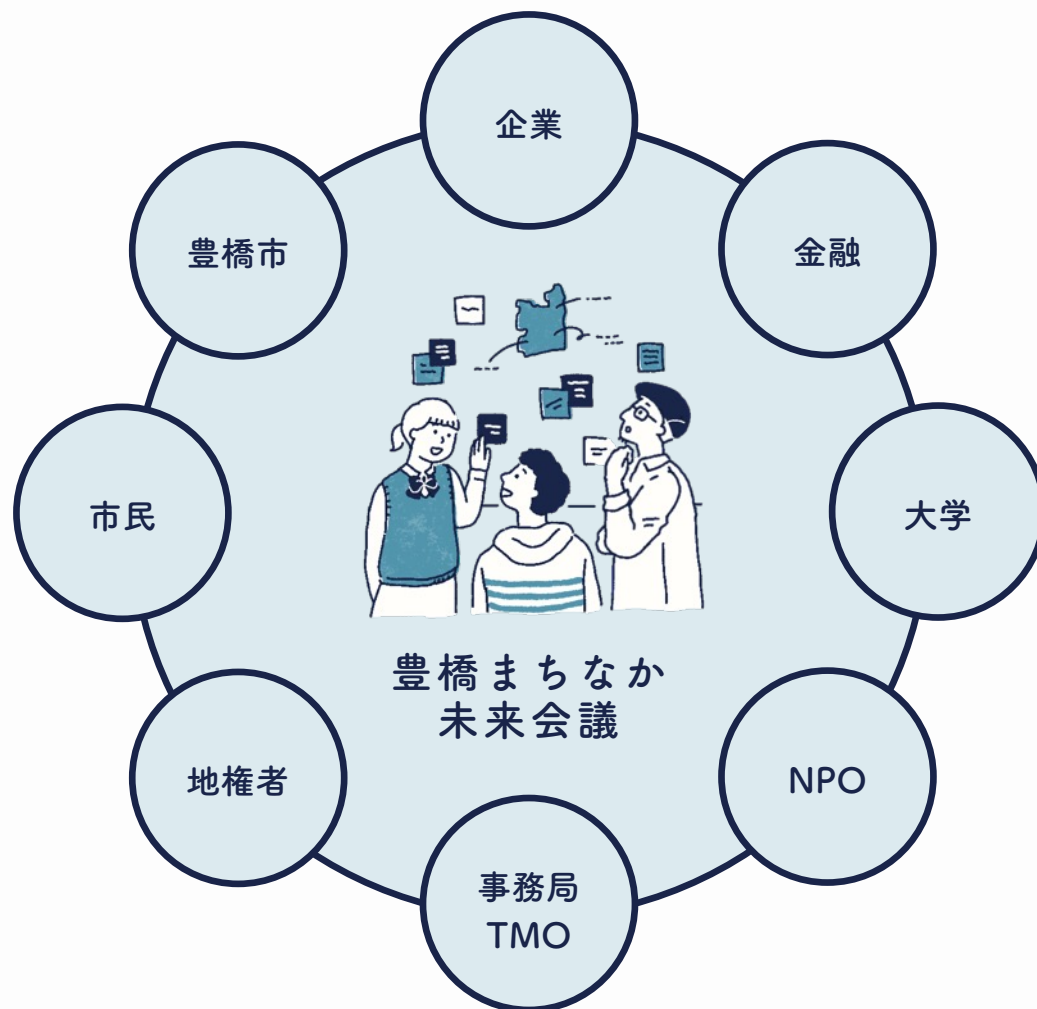


まちなか未来会議とは？



まちなか再生に 多主体連携で取り組む

まちなか未来ビジョンの策定主体は、2022年3月に新たに組織された「豊橋まちなか未来会議」です。企業や行政、市民など幅広い関係者が連携した組織であり、まちなか未来ビジョン策定を通じて、多様な方々の想いや取り組みを共有し、これからさらに新しい仲間を得ながら、まちなかの将来に向けた変革を推進します。



構成員

- ・ 愛知県タクシー協会東三河支部
- ・ 愛知大学
- ・ (株)総合開発機構
- ・ 中部ガス不動産(株)
- ・ 豊橋技術科学大学
- ・ 豊橋銀行協会
- ・ 豊橋市
- ・ 豊橋商工会議所
- ・ 豊橋信用金庫協会
- ・ 豊橋ステーションビル(株)
- ・ 豊橋創造大学
- ・ 豊橋鉄道(株)
- ・ 豊橋発展会連盟
- ・ 日本貨物鉄道(株)東海支社
- ・ 愛知県豊橋警察署
- ・ 愛知県東三河総局
- ・ 愛知県東三河建設事務所
- ・ 豊橋市自治連合会
- ・ (株)豊橋まちなか活性化センター (TMO)(事務局)

役割

- 産学官金民を含めた合意形成機関
- まちなか未来ビジョンの策定やシティプロモーション、情報発信、イベント支援・連携など、まちなか全般に関わる取り組み
- 公益的・非収益的なまちづくり事業を多様な主体と展開

豊橋まちなか未来会議 会員一覧

■本会員

会長 (株)豊橋まちなか活性化センター (TMO)

副会長 豊橋市

監事 豊橋信用金庫協会

監事 豊橋鉄道(株)

愛知県タクシー協会 東三河支部

愛知大学

(株)総合開発機構

中部ガス不動産(株)

豊橋技術科学大学

豊橋銀行協会

豊橋商工会議所

豊橋ステーションビル(株)

豊橋創造大学

豊橋発展会連盟

日本貨物鉄道(株)東海支社

■連携会員

愛知県豊橋警察署

愛知県東三河総局

愛知県東三河建設事務所

豊橋市自治連合会

■協力会員

愛知大学地域政策学部学生地域貢献事業

(NPO) アンドエス

ええじゃないか豊橋音祭り実行委員会

萱町通みち・まちづくり協議会

(株)ジェイアール東海ホテルズ ホテルアソシア豊橋

Startup Weekend豊橋

sebone実行委員会

大豊協同組合

タリーズコーヒージャパン株式会社 (豊橋駅前店)

東海旅客鉄道(株) 豊橋駅

豊橋駅前大通二丁目地区市街地再開発組合事務局

豊橋学生フリーペーパー編集部

(一社)豊橋観光コンベンション協会

(公財)豊橋市国際交流協会

TOYOはしごナイト実行委員会

(公財)豊橋青年会議所

豊橋発展会連盟イルミネーションフェスティバル実行委員会

(公財)豊橋文化振興財団

豊橋まちゼミの会

とよはしまちなかスロータウン映画祭実行委員会

Trial Village

のんほいよさこい実行委員会

広小路歩行者天国実行委員会

(株)フェニックス

BEYOND THE LIVABLE CITY (豊橋まちなか未来ビジョン) Version 1.0

2024年3月

策定主体	豊橋まちなか未来会議
策定事務局	(株)豊橋まちなか活性化センター 豊橋技術科学大学小野研究室 大日本ダイヤコンサルタント(株)
冊子デザイン	(株)R-pro